

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成21年4月1日  
(第82期) 至 平成22年3月31日

千代田化工建設株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号

(E01569)

# 目次

	頁
表紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1. 主要な経営指標等の推移	2
2. 沿革	4
3. 事業の内容	5
4. 関係会社の状況	7
5. 従業員の状況	9
第2 事業の状況	10
1. 業績等の概要	10
2. 生産、受注及び販売の状況	12
3. 対処すべき課題	14
4. 事業等のリスク	15
5. 経営上の重要な契約等	16
6. 研究開発活動	18
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	19
第3 設備の状況	23
1. 設備投資等の概要	23
2. 主要な設備の状況	23
3. 設備の新設、除却等の計画	24
第4 提出会社の状況	25
1. 株式等の状況	25
(1) 株式の総数等	25
(2) 新株予約権等の状況	26
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	26
(4) ライツプランの内容	26
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	26
(6) 所有者別状況	26
(7) 大株主の状況	27
(8) 議決権の状況	28
(9) ストックオプション制度の内容	28
2. 自己株式の取得等の状況	29
3. 配当政策	30
4. 株価の推移	30
5. 役員の状況	31
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	34
第5 経理の状況	40
1. 連結財務諸表等	41
(1) 連結財務諸表	41
(2) その他	77
2. 財務諸表等	78
(1) 財務諸表	78
(2) 主な資産及び負債の内容	99
(3) その他	101
第6 提出会社の株式事務の概要	102
第7 提出会社の参考情報	103
1. 提出会社の親会社等の情報	103
2. その他の参考情報	103
第二部 提出会社の保証会社等の情報	104

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月28日
【事業年度】	第82期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
【会社名】	千代田化工建設株式会社
【英訳名】	Chiyoda Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 久保田 隆
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号
【電話番号】	045（506）7105
【事務連絡者氏名】	総務部長 村田 卓弘
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号
【電話番号】	045（506）9410
【事務連絡者氏名】	主計部長 楠 真治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
(1) 連結経営指標等					
完成工事高 (百万円)	390,875	484,895	603,559	446,438	312,985
経常利益 (百万円)	23,161	36,797	19,121	11,449	4,837
当期純利益 (百万円)	19,400	23,531	9,640	6,498	2,953
純資産額 (百万円)	55,508	77,414	81,637	145,917	149,253
総資産額 (百万円)	279,721	442,952	378,819	357,816	328,174
1株当たり純資産額 (円)	288.88	400.56	422.44	561.12	573.61
1株当たり当期純利益 (円)	101.27	122.41	50.15	25.58	11.39
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	100.80	122.28	50.12	25.58	11.39
自己資本比率 (%)	19.8	17.4	21.4	40.7	45.3
自己資本利益率 (%)	42.00	35.51	12.18	5.73	2.01
株価収益率 (倍)	27.18	21.14	18.06	20.48	81.47
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,237	35,531	14,274	8,971	8,613
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,051	△3,458	△3,917	△1,072	△2,722
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,338	△2,191	△17,219	58,548	△2,079
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	46,878	77,051	70,089	135,536	139,790
従業員数 (名)	2,733	2,947	3,067	3,376	3,670
[外、平均臨時雇用者数]	[1,513]	[1,775]	[1,859]	[1,849]	[1,361]

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
(2) 提出会社の経営指標等					
完成工事高 (百万円)	341,599	420,182	540,731	383,189	253,467
経常利益 (百万円)	21,211	31,276	12,766	5,743	111
当期純利益 (百万円)	17,517	20,866	6,036	3,622	648
資本金 (百万円)	12,901	12,928	12,934	43,392	43,396
発行済株式総数 (千株)	192,893	193,125	193,182	260,292	260,324
純資産額 (百万円)	46,791	65,363	66,023	128,945	129,598
総資産額 (百万円)	246,229	410,685	344,281	321,673	296,308
1株当たり純資産額 (円)	243.51	339.92	343.37	497.23	499.98
1株当たり配当額 (円)	10.00	15.00	10.00	7.50	3.50
(内1株当たり中間配当額)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益 (円)	91.45	108.55	31.40	14.26	2.50
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	91.02	108.43	31.38	14.26	2.50
自己資本比率 (%)	19.0	15.9	19.2	40.1	43.7
自己資本利益率 (%)	45.33	37.21	9.19	3.72	0.50
株価収益率 (倍)	30.10	23.84	28.84	36.75	371.20
配当性向 (%)	10.9	13.8	31.8	52.6	140.0
従業員数 (名)	1,187	1,222	1,220	1,290	1,281
[外、平均臨時雇用者数]	[1,078]	[1,314]	[1,433]	[1,234]	[893]

(注) 1 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。

2 純資産額の算定にあたり、平成19年3月期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。

## 2 【沿革】

当社は、昭和23年1月20日に三菱石油株式会社の工事部門が独立して資本金100万円にて創立され、本店事務所を東京都港区に設置しました。当社企業集団の変遷を示せば次のとおりであります。

- 昭和25年1月 建設業者登録番号、建設大臣(イ)第1431号として登録。
- 昭和29年8月 横浜市鶴見区に鶴見工場を購入し、化工機製作開始。
- 昭和31年10月 千代田計装㈱を設立。
- 昭和36年10月 東京証券取引所市場第1部に上場。
- 昭和43年9月 本店事務所を横浜市鶴見区に移転。
- 昭和46年2月 千代田シンガポール・プライベート・リミテッドを設立。
- 昭和48年8月 千代田インターナショナル・コーポレーションを設立。
- 昭和48年12月 特定建設業許可番号、建設大臣許可(特-48)第2371号として許可を取得。
- 昭和49年4月 千代田工商(株)を設立。
- 昭和49年6月 千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダを設立。
- 昭和50年6月 千代田ペトロスター・リミテッド(サウジアラビア)を設立。
- 昭和56年1月 アローヘッド・インターナショナル(株)を設立。
- 昭和58年6月 千代田ナイジェリア・リミテッドを設立。
- 昭和61年2月 アローヒューマンリソース(株)(その後(株)アローメイツ)を設立。
- 昭和61年10月 千代田テクノエース(株)、ユーテック・コンサルティング(株)(現・千代田ユーテック(株))、千代田情報サービス(株)(現・ITエンジニアリング(株))を設立。
- 平成元年4月 アロー・ビジネス・コンサルティング(株)を設立。
- 平成2年3月 千代田タイランド・リミテッドを設立。
- 平成2年5月 ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシアを設立。
- 平成6年11月 エル・アンド・ティー・千代田リミテッドを設立。
- 平成7年2月 シー・アンド・イー・コーポレーション(現・千代田フィリピン・コーポレーション)を設立。
- 平成9年9月 千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー)を設立。
- 平成11年3月 第三者割当増資を実施。
- 平成12年11月 新再建計画を策定。
- 平成13年2月 無償減資を実施。
- 平成13年3月 第三者割当増資を実施。
- 平成14年4月 AES事業部を分離独立させ、千代田アドバンスト・ソリューションズ(株)を設立。
- 平成20年1月 サンライズ・リアルエステート(株)を吸収合併。
- 平成20年3月 三菱商事株式会社と資本業務提携に関する契約を締結。
- 平成20年4月 三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当増資を実施。
- 平成21年3月 ITエンジニアリング(株)の全株式取得を取得し、連結子会社化。
- 平成21年10月 (株)アローメイツ(現・アローヒューマンリソース(株))を連結子会社化。

### 3【事業の内容】

当連結会計年度における当社グループは、当社及び連結子会社19社、持分法適用関連会社2社により構成されております。

総合エンジニアリング企業グループとして、顧客のニーズを的確に把握し最も効率的な解決方法を提供する機能をビジネスの軸としており、高度先端技術を駆使し、グループ各社の持つ遂行機能を最適に組み合わせ、各社が一体となったオペレーションを展開することにより、時代や社会・地域の要請や顧客のニーズに柔軟に対応しております。なお、事業内容は、「エンジニアリング事業」と「その他の事業」に区分しており、事業の概要は以下のとおりであります。また、主要な関係会社は、4【関係会社の状況】に記載のとおりであります。

#### ① エンジニアリング事業(各種プラントのコンサルティング、計画、設計、施工、調達、試運転及びメンテナンス)

当社は本事業を主要事業としており、各種産業用・民生用設備並びに公害防止・環境改善及び災害防止用設備に関する総合的計画、装置・機器の設計・調達・設置、土木・建築・電気・計装・配管等工事及び試運転等、その他これらに付帯する一切の事業を行っております。

当社の事業の特殊性は、広範多岐に亘る技術の高度の総合化が要請される近代的産業設備、とりわけ化学工業設備の建設を、その設計から機器の調達、現場建設、試運転、メンテナンスに至るまで一貫して遂行することにより、従って、生産方式は受注生産方式をとっております。

当該事業における各関係会社との関わりは次のとおりであります。

千代田計装(株)(連結子会社)は各種産業設備等の電気・計装関連工事を、千代田工商(株)(連結子会社)は主に国内のエネルギー・化学関連設備工事及びメンテナンスを、千代田テクノエース(株)(連結子会社)は医薬品・石油施設の土木建築関連工事を行い、当社は施工する工事の一部を上記関係会社へ発注しております。

千代田ユーテック(株)(連結子会社)は各種産業設備等の総合コンサルティング・人材派遣業を行っており、当社は各種コンサルティングを発注し、また当社への技術者及び事務系社員の派遣業務を委託しております。

千代田アドバンス・ソリューションズ(株)(連結子会社)は高度解析技術・プラントライフサイクルエンジニアリング・リスクマネジメント及び宇宙分野に関する総合コンサルティングを行っており、当社は各種解析・コンサルティングを発注しております。

千代田フィリピン・コーポレーション(連結子会社)、エル・アンド・ティール・千代田リミテッド(持分法適用関連会社)はそれぞれフィリピン、インドにおいて、当社の海外設計拠点として、事業活動を担当しております。

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(連結子会社)、千代田マレーシア・センドリアン・ベルハダ(連結子会社)、千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(連結子会社)、千代田タイランド・リミテッド(連結子会社)、ピー・ティール・千代田インターナショナル・インドネシア(連結子会社)、千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(連結子会社)、千代田ペトロスター・リミテッド(持分法適用関連会社)はそれぞれシンガポール、マレーシア、カタール、タイ、インドネシア、ミャンマー、サウジアラビアにおいて、当社の海外工事遂行拠点として、事業活動を担当しております。

千代田インターナショナル・コーポレーション(連結子会社)、千代田ナイジェリア・リミテッド(連結子会社)はそれぞれアメリカ、ナイジェリアにおいて、当社の海外営業拠点として、事業活動を担当しております。

#### ② その他の事業

アローヘッド・インターナショナル(株)(連結子会社)は、旅行業及び航空運送代理業を行っており、当社は旅行業務、航空運送代理を委託しております。

アロー・ビジネス・コンサルティング(株)(連結子会社)は、財務・会計・税務の総合コンサルティングを行っており、当社は会計・出納業務を委託しております。

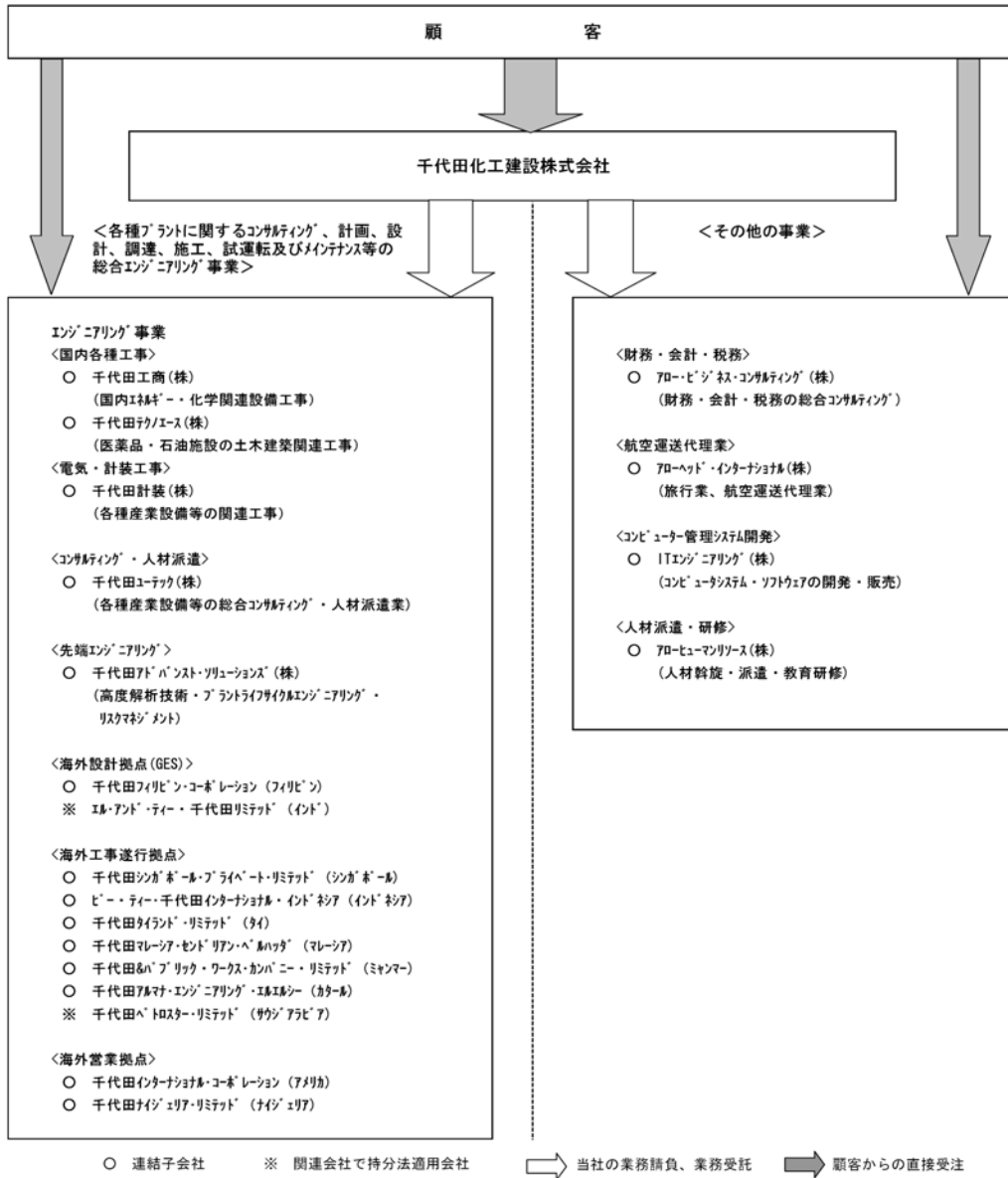
ITエンジニアリング(株)(連結子会社)は、コンピュータシステム・ソフトウェアの開発・販売等を行っており、当社よりコンピュータの管理、システムの開発を請け負っております。

アローヒューマンリソース(株)(連結子会社)は、当社への技術者及び事務系社員の派遣・研修業務・再就職支援を行っている他、当社国内連結子会社からも同様の業務を請け負っております。

以上述べた関係を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。

事業系統図

事業系統図





#### 4【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

会社の名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
千代田工商株式会社	横浜市	150百万円	エンジニアリング事業	100	主に当社の国内工事部門、メンテナンスを担当しております。また、当社監査役1名が同社監査役を兼任しております。また、当社は同社に債務保証を実施しております。
千代田計装株式会社	横浜市	334百万円	エンジニアリング事業	99.9	主に当社の電気・計装設計並びに工事業務を担当しております。また、当社監査役1名が同社監査役を兼任しております。また、当社は同社に債務保証を実施しております。
千代田テクノエース株式会社	横浜市	300百万円	エンジニアリング事業	100	当社の医薬品、国内石油施設の土木建築関連工事を担当しております。また、当社監査役1名が同社監査役を兼任しております。また、当社は同社に債務保証を実施しております。
千代田アドバンスト・ソリューションズ株式会社	横浜市	200百万円	エンジニアリング事業	100	主に当社業務に係わる先端エンジニアリング分野のコンサルティング業務を担当しております。また、当社監査役1名が同社監査役を兼任しております。
アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社	横浜市	50百万円	その他の事業	100	主に当社及び連結子会社に係わる経理業務の受託及びリース事業を担当しております。
アローヘッド・インターナショナル株式会社	東京都港区	98百万円	その他の事業	81.6	当社より旅行業務、航空運送代理業務を受託しております。また、当社は同社に債務保証を実施しております。
千代田ユーテック株式会社	横浜市	200百万円	エンジニアリング事業	100	当社業務に係わるコンサルティング及び人材派遣業務を担当しております。
ITエンジニアリング株式会社	横浜市	200百万円	その他の事業	100	当社業務のシステム開発、コンピュータ管理、情報管理等を行っている他、当社国内連結子会社からも、同様の業務を請け負っております。
アローヒューマンリソース株式会社	横浜市	66百万円	その他の事業	96	当社への技術者、事務系社員の派遣、教育研修、再就職支援、総務・人事・調達業務を受託している他、その他の国内の連結子会社からも、同様の業務を受託しております。また、当社は同社に貸付をしております。
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド	シンガポール	128万シンガポールドル	エンジニアリング事業	100	当社がシンガポールにて受注した産業設備の設計、工事を一部担当しております。また、当社は同社に債務保証を行っております。
千代田フィリピン・コーポレーション	フィリピン	151百万フィリピン・ペソ	エンジニアリング事業	100	当社が受注したプロジェクトに係わる設計業務を担当しております。
千代田インターナショナル・コーポレーション	アメリカ合衆国テキサス州	1,235万米ドル	エンジニアリング事業	100	当社のアメリカにおける営業拠点として事業活動を担当しております。
ビー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア	インドネシア	215万米ドル	エンジニアリング事業	100 (0.7)	千代田シンガポール・プライベート・リミテッドが0.7%出資しており、主として当社が受注したインドネシアにおける産業設備の工事を担当しております。

会社の名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド	ミャンマー	50万米ドル	エンジニアリング事業	60	当社がミャンマーにて受注した産業設備の工事を担当しております。
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ	マレーシア	1百万マレーシアドル	エンジニアリング事業	21.5 (1)	千代田シンガポール・プライベート・リミテッドが1%出資しており、当社がマレーシアにて受注した産業設備の設計、工事を一部担当しております。 (注) 3
千代田タイランド・リミテッド	タイ	4百万タイバツ	エンジニアリング事業	49 (16)	当社が受注したタイにおける産業設備の設計、工事を一部担当しております。千代田シンガポール・プライベート・リミテッドが16%出資しております。 (注) 3
千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー	カタール	4.5百万カタールリヤル	エンジニアリング事業	49	主に当社がカタールにて受注・建設した産業設備の保守・改修業務を担当しております。また当社は同社に債務保証を実施しております。 (注) 3
千代田ナイジェリア・リミテッド	ナイジェリア	10百万ナイジェリアナイラ	エンジニアリング事業	100	当社のナイジェリアにおける営業拠点として事業活動を担当しております。

他 連結子会社1社

- (注) 1 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で、内数であります。  
2 上記連結子会社はいずれも有価証券報告書提出会社ではありません。  
3 議決権の所有割合は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

(2) 持分法適用関連会社

会社の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
千代田ペトロスター・リミテッド	サウジアラビア	7百万サウジリアル	エンジニアリング事業	49	当社がサウジアラビアにて受注した産業設備の設計、工事を一部担当しております。また、当社は同社に債務保証を実施しております。
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド	インド	90百万インドルピー	エンジニアリング事業	50	主として当社が受注した海外プロジェクトに係わる設計業務を担当しております。当社取締役1名が同社取締役を兼任しております。

(3) その他の関係会社

会社の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権の被所有割合 (%)	関係内容
三菱商事株式会社 (注)	東京都千代田区	202,940百万円	エネルギー、金属、機械、化学品、生活物資等の国内・輸出・輸入及び外国取引並びに、情報、金融、物流その他サービスの提供、国内外における事業投資	33.7	資本業務提携関係

(注) 有価証券報告書を提出しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

事業の種類別セグメントを記載していないため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

平成22年3月31日現在

事業部門の名称	エンジニアリング事業	その他の事業	管理部門(本社)	合計
従業員数(名)	2,870 ( 1,119)	591 ( 164)	209 ( 78)	3,670 ( 1,361)

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む)であります。
- 2 従業員数欄の( )内は(外数で記載している)、臨時従業員(当社グループにて就業する契約社員、派遣社員、その他業務委託者等の人数。但し、嘱託及び当社グループの建設現場等グループ各社の本社事務所以外で就業する者は除く)の年間平均雇用人員であります。
- 3 その他の事業の従業員数が前連結会計年度と比べて182名増加しておりますが、その主な理由は、アローヒューマンリソース株式会社を子会社にしたことによるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

区分	直接	間接	合計又は平均
従業員数(名)	1,072 ( 815)	209 ( 78)	1,281 ( 893)
平均年齢(歳)	43.0	43.4	43.1
平均勤続年数(年)	16.6	15.2	16.3
平均年間給与(円)	8,920,037	7,875,747	8,749,658

- (注) 1 従業員数は、執行役員、顧問・参与・フェロー並びに外国人・期限付嘱託及び当社から他社への出向者を除き、嘱託及び他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3 従業員数欄の( )内は(外数で記載している)、臨時従業員(当社にて就業する契約社員、派遣社員、その他業務委託者等の人数。但し、当社の建設現場等、本社事務所以外で就業する者は除く)の年間平均雇用人員であります。

### (3) 労働組合の状況

労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度の受注工事高は、4,293億93百万円(前連結会計年度比 105.0%増)となり、その内訳は、海外 3,315億77百万円(同 448.2%増)、国内 978億15百万円(同 34.3%減)となりました。なお、当連結会計年度末受注残高は、5,361億50百万円となりました。

連結完成工事高については、手持工事の進捗により 3,129億85百万円(同 29.9%減)となり、その内訳は、海外 1,691億7百万円(同 47.7%減)、国内 1,438億78百万円(同 16.8%増)となりました。完成工事の主なものは次のとおりです。

(※は当期に最終完成した案件)

海外	・カタール向けラスガス3社LNGプラント第6及び第7系列増設工事(※) ・カタール向けカタールガス3社及びカタールガス4社LNGプラント第6及び第7系列増設工事 ・カタール向けエクソンモービル社湾岸ガス開発プロジェクト・フェーズ2(※) ・カタール向けカタールガス2社LNGプラント第4及び第5系列増設工事(※) ・カタール向けシェル社パールGTLプロジェクト・ガス前処理プラント
国内	・太陽石油(株)RFCC COMPLEX設備建設工事 ・水島エルエヌジー(株)水島LNG基地増設工事

利益面では、完成工事総利益は 142億19百万円(同 25.1%減)、営業利益は 17億2百万円(同 76.4%減)、経常利益は 48億37百万円(同 57.7%減)、当期純利益は 29億53百万円(同 54.5%減)となりました。

#### ① 事業部門別の業績は次のとおりであります。

##### a エンジニアリング事業

当連結会計年度における世界経済は、中国、インドなどを中心とするアジア諸国等において景気回復の加速が鮮明となってきた一方で、欧州諸国においては回復への動きは鈍く、景気の先行きは不透明となっております。我が国経済においても、景気は持ち直してきましたが、なお自律回復力は弱く、厳しい状況にあります。

また当社グループを取り巻く事業環境は、石油・ガスの将来的な需要拡大を背景に、各地での大型投資案件の具体化が進むなど受注機会の高まりがみられる一方、躍進著しい韓国コントラクターとの競争激化にさらされる状況も現れ始めました。

このような状況下、当社グループは、パプアニューギニアでのLNG(液化天然ガス)プラントなどを始めとした国内外のEPC(設計・調達・施工)業務や複数の基本設計業務等を受注しました。また、既受注案件の確実な遂行に取組み、カタールで建設を進めてきた超大型(年産780万トン級)LNGプラント6系列のうち、先期に完成した1系列に加えて3系列を完成させました。しかしながら、カタールガス社LNGプラント第6、第7系列建設工事において契約納期内の完成を達成すべく工事従事者の増強などの梃入れ策を実施したため、工事採算が大幅に悪化しました。こうした業績悪化を受け、リスク管理を徹底するとともに、既受注案件の利益改善を図り、新規受注案件を着実に遂行することで、業績を回復すべく努力いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の受注工事高は 4,243億44百万円(前連結会計年度比 108.6%増)となり、完成工事高については 3,075億58百万円(同 30.2%減)となりました。

##### b その他の事業

その他の事業部門は、上記エンジニアリング事業部門に対する各種サポート業務が中心であり、当連結会計年度の受注工事高は 50億48百万円(前連結会計年度比 16.5%減)となり、完成工事高についても 54億27百万円(同 5.2%減)となりました。

② 所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

a 日本

当連結会計年度においては、完成工事高は 3,033億72百万円(前連結会計年度比 1,265億7百万円減)となり、営業利益 7億34百万円(同 43億36百万円減)を計上しました。

b アジア地域

当連結会計年度において、完成工事高は 85億86百万円(前連結会計年度比 79億61百万円減)となり、営業利益 9億65百万円(同 11億89百万円減)を計上しました。

c その他の地域

当連結会計年度において、完成工事高は 10億26百万円(前連結会計年度比 10億16百万円増)となり、営業利益 2百万円(同 3百万円減)を計上しました。

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 当連結会計年度の上記所在地別セグメントの業績の完成工事高の金額及び前年同期比比較には、セグメント間の内部完成工事高を含んでおりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、運転資金収支(売上債権、未成工事支出金、仕入債務、未成工事受入金の増減額合計)がマイナスとなったものの、税金等調整前当期純利益 47億14百万円の計上やJV大型案件の進捗に伴うJV持分資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ 42億54百万円増加(前連結会計年度比 611億92百万円減)し、当連結会計年度末には 1,397億90百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による資金収支は 86億13百万円の増加(前連結会計年度比 3億57百万円減)となりました。

これは、運転資金収支が 213億98百万円のマイナスとなったものの、税金等調整前当期純利益 47億14百万円及び減価償却費 20億59百万円の計上に加え、JV大型案件の進捗に伴うJV持分資産の減少 305億8百万円などによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金収支は 27億22百万円の減少(前連結会計年度比 16億50百万円減)となりました。

これは、ソフトウェア投資などの設備投資 18億64百万円などの実施によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動による資金収支は 20億79百万円の減少(前連結会計年度比 606億27百万円減)となりました。

これは、配当金の支払 19億40百万円などによるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 受注実績

事業部門の名称	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
	受注高		受注残高		受注高		受注残高	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円) <前年同期比>	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
1 エンジニアリング 事業	203,379	97.1	424,170 (△8,459)	99.8	424,344 <108.6%増>	98.8	535,655 (△5,300)	99.9
(1) LNGプラント 関係	42,845	20.5	137,214 (△3,460)	32.3	267,970 <525.4%増>	62.4	296,265 (△3,493)	55.3
(2) その他ガス・ 動力関係	72,160	34.5	168,936 (△2,867)	39.8	30,403 <57.9%減>	7.1	123,075 (△1,806)	22.9
(3) ガス化学関係	240	0.1	845 (—)	0.2	167 <30.2%減>	0.0	584 (—)	0.1
(4) 石油・ 石油化学関係	53,445	25.5	83,458 (△4,189)	19.6	56,140 <5.0%増>	13.1	55,703 (△16)	10.4
(5) 一般化学関係	25,522	12.2	20,862 (2,344)	4.9	21,680 <15.1%減>	5.1	16,551 (69)	3.1
(6) 一般産業機械 関係	4,032	1.9	1,788 (△240)	0.4	24,169 <499.4%増>	5.6	21,850 (△52)	4.1
(7) 環境関係・ その他	5,133	2.4	11,064 (△45)	2.6	23,812 <363.9%増>	5.5	21,624 (△0)	4.0
2 その他の事業	6,043	2.9	873 (468)	0.2	5,048 <16.5%減>	1.2	494 (—)	0.1
総合計	209,422	100.0	425,043 (△7,991)	100.0	429,393 <105.0%増>	100.0	536,150 (△5,300)	100.0

なお、国内及び海外の受注高並びに受注残高の内訳は、次のとおりであります。

国内外内訳	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
	受注高		受注残高		受注高		受注残高	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円) <前年同期比>	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
国内	148,936	71.1	215,740 (△548)	50.8	97,815 <34.3%減>	22.8	169,232 (△444)	31.6
海外	60,486	28.9	209,303 (△7,442)	49.2	331,577 <448.2%増>	77.2	366,918 (△4,855)	68.4
合計	209,422	100.0	425,043 (△7,991)	100.0	429,393 <105.0%増>	100.0	536,150 (△5,300)	100.0

(注) 受注残高の( )内の数字は、前連結会計年度以前に受注した工事の契約変更等による減額分並びに受注高の調整による増額分及び外貨建契約に関する為替換算修正に伴う増減額の合計を表示しております。

## (2) 売上実績

事業部門の名称	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円) 〈前年同期比〉	構成比(%)
1 エンジニアリング事業	440,713	98.7	307,558 〈30.2%減〉	98.3
(1) LNGプラント関係	192,769	43.2	105,424 〈45.3%減〉	33.7
(2) その他ガス・動力関係	127,007	28.4	74,457 〈41.4%減〉	23.8
(3) ガス化学関係	467	0.1	428 〈8.2%減〉	0.2
(4) 石油・石油化学関係	74,131	16.6	83,879 〈13.1%増〉	26.8
(5) 一般化学関係	24,232	5.4	26,061 〈7.5%増〉	8.3
(6) 一般産業機械関係	9,216	2.1	4,055 〈56.0%減〉	1.3
(7) 環境関係・その他	12,889	2.9	13,251 〈2.8%増〉	4.2
2 その他の事業	5,724	1.3	5,427 〈5.2%減〉	1.7
総合計	446,438	100.0	312,985 〈29.9%減〉	100.0

なお、国内及び海外の売上実績の内訳は、次のとおりであります。

国内外内訳	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円) 〈前年同期比〉	構成比(%)
国内	123,156	27.6	143,878 〈16.8%増〉	46.0
海外	323,282	72.4	169,107 〈47.7%減〉	54.0
合計	446,438	100.0	312,985 〈29.9%減〉	100.0

- (注) 1 当社グループでは生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。  
2 主な相手先別の売上実績及び総売上高に対する割合は次のとおりであります。

前連結会計年度			当連結会計年度		
相手先	金額 (百万円)	割合 (%)	相手先	金額 (百万円)	割合 (%)
カタール・シェル・ジーティー エル・リミテッド	67,078	15.0	ラスラファン・リキファイド・ ナチュラル・ガス・カンパニ ー・リミテッドⅢ	38,023	12.1
ラスラファン・リキファイド・ ナチュラル・ガス・カンパニ ー・リミテッドⅢ	59,479	13.3	カタール・リキファイド・ガ ス・カンパニー・リミテッド Ⅲ・Ⅳ	35,147	11.2
カタール・リキファイド・ガ ス・カンパニー・リミテッド Ⅲ・Ⅳ	58,839	13.2			
カタール・リキファイド・ガ ス・カンパニー・リミテッドⅡ	45,634	10.2			

- 3 本表の金額には消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

#### (1) 当社グループの対処すべき課題

当社グループを取り巻く事業環境は地域ごとに経済回復の歩みは異なるものの、成長へ向けた積極的な投資をすすめる顧客を中心に、大型プラント発注の動きがみられます。こうした事業環境のもと、中期経営計画「変革と創造2012」にて掲げている利益目標の達成や、成長戦略の推進と事業基盤の強化のために、平成23年3月期(2010年度)にて対処すべき課題は以下のとおりであります。

##### ① 新規案件の受注獲得

海外ではLNG・ガス分野に加え、石油・石油化学分野等における新規案件の獲得に注力し、受注分野の多様化を目指します。そのためには技術開発やコスト競争力の強化、要員の確保・育成のための各種施策を講じてまいります。

国内では従来分野のみならず、多様な産業設備分野や顧客の海外進出案件の受注獲得に向けて、当社グループの海外拠点も活用しつつ、営業展開を図ってまいります。

##### ② 既受注プロジェクトの遂行

現在工事遂行中のカタールにおけるLNGプロジェクトでは、工事従事者の逼迫等の当初予想を超えたコストアップ要因が発生し、収益が大きく圧迫されてきました。今後ともカタールのLNGプロジェクトのみならず、その他の地域で受注、遂行中の新規大型案件のプロジェクト管理の徹底を継続し、安全への一層の配慮と確実な施工により、顧客のより高い信頼を得るべく努めてまいります。

##### ③ 新事業分野の開拓

環境ビジネスについては、当社の技術優位性のある分野、また非EPCビジネスについても社内の専任遂行組織による営業展開を強化してまいります。

##### ④ 海外拠点の拡充

地域密着型の営業・遂行体制の構築のための各地域の現地法人のプロジェクト遂行要員や営業要員を拡充いたします。またコスト競争力を高めるための国際分業の推進にあたり、海外設計子会社等の機能拡大のための施策も講じてまいります。

#### (2) 株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、基本的には、企業価値を高めるとともにIR(投資家向け広報)に努めて、株主の方々に評価してもらうことが重要と考えております。

したがって、新株予約権の発行などによる買収防衛策をとることは予定しておりませんが、当社に対して買収提案があった場合には、企業価値の向上・株主共同の利益を判断基準として、当社としての意見表明などの適切な措置をとってまいります。

また、当社は、自社による努力はもとより、他社との提携も含めた一層の事業深耕・拡大を追求することにより、企業価値向上を図ることを基本方針としております。このような考え方にに基づき、平成20年(2008年)3月31日に三菱商事株式会社と資本業務提携を行って協力関係を強化し、更なる企業価値向上をめざすこととしました。



#### 4【事業等のリスク】

当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する重要事項等、投資のリスクに係わる投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項、及び、それらの事項に対する対応について、以下記載しております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、リスク発生の低減に注力するとともに、リスクが発生した場合にはその影響を最小限に抑えるべく可及的速やかな対応に努める所存であります。

なお、以下記載のうち将来に関するリスク事項については、提出日現在において、当社が経営上の重要なリスク管理の対象として認識しているものであります。

##### (a) 為替レートの変動

海外向け工事では、機器資材調達、下請工事代金の決済が工事代金と異なる通貨で行われる場合があるため、為替レートの変動が業績に影響を与える可能性があります。当社グループでは、支出を予定する複数の通貨での工事代金受領や為替予約の手当によって為替レート変動のリスクを回避・最小化するよう努めております。

##### (b) 景気動向の変動による影響

世界的な景況動向の変動等の影響を受け、顧客の投資計画に中止・延期や内容の見直しなどが発生することにより、当社グループの業績に影響を及ぼす場合があります。また下請業者・機器資材発注先等のプラント建設に関わる取引先の経営状況の悪化により、工事の遂行計画や採算、代金回収への影響が発生する場合があります。

当社グループでは、取引にあたりましては、経済の動向を注視しつつ、取引先の信用状況の調査を十分に行之、取引の可否や取引上の条件の確認を行う等、これらのリスクの回避・最小化に努めております。

##### (c) テロ・紛争等の不可抗力

テロ・紛争等のカントリーリスク及び天災等の不可抗力の発生により、工事現場あるいは国内外の事業所への直接的又は間接的な損害、機器資材の工事現場への搬入の遅れ、工事従事者の安全への危険、現場工事の中断などの影響が発生する場合があります。

当社グループでは、人的被害の回避を優先しつつ、これら有事の際には顧客等関係先との協議を含め迅速な初動対応を実施できるよう危機管理システムを構築し、損害や追加費用に関わる顧客との合理的な分担を定めた契約条件の獲得などにより、これらのリスクの回避・最小化を図っております。

##### (d) 工事従事者・工事機材の手配と確保

プラント建設では、大規模な建設工事に必要な工事従事者などの人的資源や工事機材、工事に要するインフラについて計画通りの手配と確保が出来ない場合、下請工事費用が見積入札時の予測を超えて増大したり、工事に係る資源の不足や質の低下により工程に遅れが生じ、その工程の遅れを回復するために更なる追加費用が発生する場合があります。

当社グループでは、有力な工事業者との協力関係構築を基礎にして、世界各地から各職種要員を手配するとともに、各工事現場において工事従事者のスキルアップに努めるなど、影響を最小化するための対応策を取っております。

##### (e) プラント事故

当社グループが建設中又は建設したプラントに、何らかの原因によって爆発や火災の発生等の重大事故が発生し、その原因が当社グループの責任と判断された場合には、損害賠償責任の負担など業績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループはこのような不測の事態が発生しないよう、品質管理・工事安全管理等について万全を期すことはもとより、適切な保険の付保、損害の負担に関わる顧客との合理的な分担を定めた契約条件の獲得などにより、これらのリスクの回避・最小化を図っております。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### (1) 資本業務提携契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約締結日	契約内容
千代田化工建設(株) (当社)	三菱商事株式会社	日本	平成20年3月31日	第三者割当増資による普通株式の発行を含む資本業務提携

### (2) 株式譲渡契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約締結日	契約内容
千代田化工建設(株) (当社)	株式会社メイツホールディングス	日本	平成21年10月1日	(株)メイツホールディングスが保有する(株)アローメイツ(現 アロヒューマンリソース(株))の普通株式621株の譲受

### (3) 当社の技術導入契約

契約先	内容	契約期間	契約年月	備考
ユーオーピー (アメリカ)	炭酸ガス及び硫化水素除去装置の設計、建設に関する技術の導入	3年間、以降1年毎に自動更新	昭和63年7月	
ハルダー・トプソー・エイ・エス (デンマーク)	ナフサ水蒸気改質プロセスに関する技術の導入	5年間、以降1年毎に自動更新	平成元年4月	
ハルダー・トプソー・エイ・エス (デンマーク)	水素ガス、還元ガス、合成ガスその他水素を含むガスを製造する技術の導入	5年間、以降1年毎に自動更新	平成19年11月	昭和61年に締結した契約を改定
スタミカーボン・ビー・ヴィー (オランダ)	ストリップング・プロセスによる尿素製造法の導入	5年間、以降2年毎に自動更新	昭和52年2月	平成22年3月に契約を改定
ディー・エス・エム・ファイバー・インターメディアーツ・ビー・ヴィー (オランダ)	カプロラクタムの製造法の導入	5年間、以降2年毎に自動更新	昭和52年2月	平成22年3月に契約を改定
ディー・エス・エム・メラミン・ビー・ヴィー(オランダ)	メラミンの製造法の導入	5年間、以降2年毎に自動更新	昭和52年2月	平成22年3月に契約を改定
ジェイコブス・エンジニアリング・ネダーランド・ビー・ヴィー (オランダ)	硫黄回収技術の導入	2年間、以降1年毎に自動更新	平成8年5月	
シェル・リサーチ・リミテッド (イギリス)	硫化水素ガス等の酸性ガス除去装置(アディップ・プロセス)に関する技術の導入	3か月前の通知によって終了	昭和57年12月	
シェル・リサーチ・リミテッド (イギリス)	硫黄回収装置のテールガスを処理する装置(スコット・プロセス)に関する技術の導入	3か月前の通知によって終了	昭和58年5月	
シェル・リサーチ・リミテッド (イギリス)	硫化水素、炭酸ガス、硫化カーボニル、メルカプタン等の酸性ガス除去装置(サルフィノール・プロセス)に関する技術の導入	3か月前の通知によって終了	昭和58年5月	

## (4) 当社の技術供与契約

契約先	内容	契約期間	契約年月	備考
ブラック・アンド・ヴィーチ・コーポレーション (アメリカ)	排煙脱硫プロセス (CT-121) の技術供与	7年間	平成20年1月	平成13年に締結したライセンス契約を更新
株式会社荏原製作所 (日本)	排煙脱硫プロセス (CT-121) についての、中華人民共和国における再実施権付独占実施権の供与	無期限	平成15年3月	
サザン・カンパニー・サービス (アメリカ)	親会社サザン・カンパニー (アメリカ) のオペレーション地域におけるCT-121プロセスの非独占実施権供与	15年間	平成15年5月	
パーマイヤー・アンド・ウェイン・エネジー (デンマーク) / サルバトーレ・トリフィーネ・フィグリ (イタリア)	排煙脱硫プロセス (CT-121) のヨーロッパ地域における技術供与	7年間	平成16年4月	

## 6 【研究開発活動】

### (1) エンジニアリング事業

研究開発活動は当社及び千代田アドバンス・ソリューションズ㈱が行っております。ビジネスの発掘、受注の促進、付加価値の増大、技術優位性の確立等に寄与する技術・商品の開発を目指し、以下の3つを重点分野としております。

- ① エネルギー・環境分野
- ② 新化学分野
- ③ エンジニアリング力強化

当連結会計年度における主要な研究成果は、次のとおりであります。

- ・CT-121排煙脱硫プロセスは、米国、欧州、アジアなど海外の石炭火力発電所向けの販売促進を目的として、今後問題となってくる石炭種の低品位化、微量成分の規制強化などへの対応の技術改良を昨年度と同様、継続的に取り進めております。また、次世代型の排煙脱硫プロセスとして開発した触媒酸化法排煙脱硫装置(CASOX PROCESS)は、簡便システム、低運転コスト、超高効率可能、ゼロエミッションという様々な特徴を有しております。PRTR法等の新規規制対応、化石燃料の低品質化、環境保全装置の高効率化などの将来を見据えた対応技術として技術改良、競争力強化を進めております。
- ・天然ガスをCO<sub>2</sub>により改質し、GTL（ガス・ツウ・リキッド）、メタノール合成、DME（ジ・メチル・エーテル）合成などの原料となる合成ガスを製造するCO<sub>2</sub>改質プロセスを、JOGMEC（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）GTLプロジェクトに参画し開発しています。このプロジェクトは、東南アジアに多く存在するCO<sub>2</sub>含有量の高い天然ガスの有効利用を目的に、経済的に合成燃料油を製造する技術（GTL技術）の開発を実施しています。現在、JOGMEC-GTL実証化研究（2006～2010年度）に参加し、2009年に新潟に建設した500BPSD規模の合成燃料油製造用実証化プラントにて4000時間の合成ガス安定供給を達成し、CO<sub>2</sub>改質プロセスの完成に至りました。2010年度は化学プラントへの展開も含めてビジネス化に向けての本格的な検討を開始します。
- ・将来の水素エネルギー社会への対応として、有機ケミカルハイドライド（水素化反応で水素を分子内に取り込み、また、脱水素反応で水素を放出できる有機化合物）を用いた水素輸送／貯蔵システム及び技術的なキーとなる脱水素技術の開発を実施しています。開発した脱水素触媒の反応速度モデルを確立し、反応器設計のベースデータがそろいました。触媒メーカーでの工業規模試作も始まり、技術的にはほぼ完成の域に達しています。来るべき水素社会のシステム開発に向けて、関連企業、組織との連携構築を行っています。
- ・高温空気燃焼制御技術（HiCOT）開発プロジェクトでは、燃料消費量の低減、CO<sub>2</sub>・NO<sub>x</sub>・COなど環境負荷物質の削減、コンパクトな水素製造プラント実現の可能性が確認されています。NEDOとの共同でこれまでに実証化プラントの設計/建設（水素製造量：1,200Nm<sup>3</sup>/HR）、実証化試験を実施し、目標とした省燃料、低NO<sub>x</sub>燃焼、炉の小型化が確認されました。水素製造プラントの商業化に目処が立ち、1号機受注に向けての活動を継続しています。
- ・第1号基プラントとしてライセンス供与した貴州水晶有機化工（集団）有限公司（中国貴州省）向け新酢酸合成プロセスは、商業プラントがほぼ完成し、運転開始準備中です。また、大型商業装置の設計手法の確立及び更なる競争力強化検討を概ね完了し、大型2号基の実現に向けた活動を精力的に進めています。
- ・軽油の超深度脱硫用として開発したチタニア触媒は、工業化に向けより競争力を強化すべく、改良研究を実施し、既存のアルミナ触媒と比べ高性能の改良チタニア触媒の開発に至り、工業生産委託先および実機評価テスト先の検討を進めています。
- ・エンジニアリング力強化では、プラントの超大型化への技術的対応及びLCC（ライフ・サイクル・コスト）のプラント設計適用などによるPLE（プラント・ライフサイクル・エンジニアリング）の事業展開を地域的な広がりをもって創造・推進するよう努めています。

なお、研究開発業務に従事している人員は研究開発センターを中心に約60名であり、当連結会計年度中に支出した研究開発費の総額は1,741百万円（消費税等は含まない）であります。

### (2) その他の事業

該当活動はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成22年6月28日)現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。一般に公正妥当と認められる連結財務諸表の作成にあたっては、期末日における資産及び負債の報告額や、報告対象期間中の収益及び費用の報告額に影響する判断及び見積りを行うことが要求されます。当社グループの連結財務諸表作成にあたっては、過去実績や状況に応じて合理的と考えられる様々な要因に基づいて判断及び見積りを行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合もあります。

当社は、特に以下の重要な会計方針の適用において使用される当社の判断と見積りが、当社グループの連結財務諸表の報告額に重要な影響を及ぼすと考えております。

#### ① 貸倒引当金

当社グループでは、債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については、保守的に見積った回収不能見込額を貸倒引当金として計上しております。

#### ② 完成工事補償引当金

当社グループでは、主として、過去の経験割合に基づく一定の算定基準により、完成工事に係わる瑕疵担保等の費用を見積り、完成工事補償引当金を計上しております。

#### ③ 工事損失引当金

当社グループでは、当連結会計年度末において損失の発生が見込まれる未引渡工事に係る将来の損失に備えるため、合理的に見積もった損失見込み額を工事損失引当金として計上しております。

#### ④ 退職給付引当金

当社グループでは、従業員の退職給付に備えるため、見積りを反映した各種の仮定に基づく数理計算により算出された退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき退職給付引当金の計上を行っております。

#### ⑤ 収益の認識

当社グループでは、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については、工事進行基準(工事進捗率の見積もりは原価比例法)により完成工事高を計上しております。

#### ⑥ 工事原価の見積り

当社グループでは、工事契約において定められている目的物の引渡しを行った連結会計年度末において確定していない費用については、次期以降に発生する費用を見積り、工事原価として計上しております。

#### ⑦ 繰延税金資産

当社グループでは、繰延税金資産の回収可能性を評価するにあたり、将来の課税所得を合理的に見積り、将来の税金負担を軽減する効果を有すると判断した繰延税金資産を計上しております。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### ① 概要

当連結会計年度における世界経済は、中国、インドなどを中心とするアジア諸国等において景気回復の加速が鮮明となってきた一方で、欧州諸国においては回復への動きは鈍く、景気の先行きは不透明になっております。我が国経済においても、景気は持ち直してきましたが、なお自律回復力は弱く、厳しい状況にあります。また当社グループを取り巻く事業環境は、石油・ガスの将来的な需要拡大を背景に、各地での大型投資案件の具体化が進むなど受注機会の高まりがみられる一方、躍進著しい韓国コンストラクターとの競争激化にさらされる状況も現れ始めました。

このような状況下、当社グループは、パプアニューギニアでのLNG(液化天然ガス)プラントなどを始めとした国内外のEPC(設計・調達・施工)業務や複数の基本設計業務等を受注しました。また、既受注案件の確実な遂行に取組み、カタールで建設を進めてきた超大型(年産780万トン級)LNGプラント6系列のうち、先期に完成した1系列に加えて3系列を完成させました。しかしながら、カタールガス社LNGプラント第6、第7系列建設工事において契約納期内の完成を達成すべく工事従事者の増強などの挺入れ策を実施したため、工事採算が大幅に悪化しました。こうした業績悪化を受け、リスク管理を徹底するとともに、既受注案件の利益改善を図り、新規受注案件を着実に遂行することで、業績を回復すべく努力いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の受注工事高は4,293億93百万円(前連結会計年度比105.0%増)となり、完成

工事高は 3,129億85百万円(同 29.9%減)となりました。営業利益は 17億2百万円(同 76.4%減)、経常利益は 48億37百万円(同 57.7%減)、当期純利益は 29億53百万円(同 54.5%減)となりました。

② 受注工事高／完成工事高

当連結会計年度の受注工事高は、海外 3,315億77百万円(前連結会計年度比 448.2%増)、国内 978億15百万円(同 34.3%減)、合計 4,293億93百万円(同 105.0%増)を獲得し、完成工事高は、海外 1,691億7百万円(同 47.7%減)、国内 1,438億78百万円(同 16.8%増)、合計 3,129億85百万円(同 29.9%減)となりました。

当社グループの事業活動の100%近くを占めるエンジニアリング事業について、分野別に見ると、以下のとおりとなります。

a 天然ガス・電力分野

海外においては、パプアニューギニアでのLNGプラントのEPC業務、カタールにおけるガス処理プラントのEPC業務、ブラジルでのFloating(浮体式)LNGプラントの基本設計業務等を受注しました。遂行面では、大型LNGプラントの建設工事に加え、複数の基本設計/遂行計画立案(FS)業務を引き続き実施しました。また、カタールに設立した子会社が、先期に契約したLNG・ガス処理プラントの設計・調達・建設管理業務長期サービスを開始しました。こうした長期サービス業務により、当社グループは、かねてより展開を図ってきたプラント・ライフサイクル・エンジニアリング(PLC)事業を推進しております。

国内においては、LNG受入基地建設に係る基本設計業務などを受注し、新潟県や岡山県におけるLNG受入基地建設工事3件を含む既受注案件を引き続き遂行しました。

当連結会計年度の受注工事高は 2,983億73百万円(前連結会計年度比 159.4%増)となり、完成工事高は 1,798億82百万円(同 43.7%減)となりました。

b 石油・石油化学・ガス化学分野

海外においては、中東地域や東南アジア地域における製油所の投資計画案件に当社グループ一体となって取り組み、サウジアラビアでの重質油分解装置のEPC業務、シンガポールでは脱硫プラントの基本設計業務を受注しました。こうした業務の遂行を通じてグループ会社の強化を図り、グローバルオペレーションを推進しています。

国内においては、石油業界の再編、設備休止計画が発表され、投資計画が縮小される環境の中、コンビナート間の連携事業、競争力強化・省エネ化等のための検討業務等を受注しました。また、遂行面ではCCR(連続触媒再生式接触改質)装置建設工事が予定通り竣工するなど、順調に進行しました。

当連結会計年度の受注工事高は 563億7百万円(同 4.9%増)となり、完成工事高は 843億8百万円(同 13.0%増)となりました。

c 一般化学・産業機械・環境・その他分野

一般化学・産業機械分野においては、太陽光・太陽熱発電などの再生可能エネルギー分野、リチウムイオン電池部材や車載用の先端素材部品などのエコカー関連分野、非鉄金属精錬分野などで集中的に営業活動を行い、一定の成果をあげることができました。

医薬品関連分野においては、抗体医薬品、抗がん剤に代表される高活性医薬品の投資計画案件に向けて営業活動を展開し、順調に受注することができました。

当連結会計年度の受注工事高は 696億62百万円(同 100.8%増)となり、完成工事高は 433億68百万円(同 6.4%減)となりました。

③ 完成工事総利益

完成工事総利益は、カタールガス社LNGプラント第6、第7系列建設工事における工事採算の悪化などにより前連結会計年度比 25.1%減の 142億19百万円となりました。その一方で、完成工事総利益率は前連結会計年度の 4.3%から0.2ポイント向上し4.5%となりました。

④ 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、連結子会社が増加したことなどにより前連結会計年度より 7億67百万円増加し 125億17百万円となりました。完成工事高の減少に伴い、販売費及び一般管理費比率は前連結会計年度の2.7%から 1.3ポイント上昇し4.0%となりました。

⑤ 営業利益

営業利益は、完成工事総利益が減少したことに伴い前連結会計年度比 76.4%減の 17億2百万円となり、この結果、営業利益率は前連結会計年度の1.6%から1.1ポイント悪化し0.5%となりました。

⑥ 営業外収益・営業外費用

営業外収益及び営業外費用は、前連結会計年度の 42億22百万円の収益超過に対し、当連結会計年度は 10億86百万円減の 31億35百万円の収益超過となりました。

受取利息・受取配当金から支払利息を差し引いた金融収支は、ジョイントベンチャー持分資産の減少に伴う運用収益の減少などにより、当連結会計年度は 17億67百万円の入金超過となり、前連結会計年度に比べ 29億92百万円減少しました。持分法による投資損益は、前連結会計年度の 1億37百万円に対し、当連結会計年度は 6百万円増加し、1億44百万円となりました。

⑦ 特別利益・特別損失

特別利益及び特別損失は、前連結会計年度が 17億98百万円の損失超過であったのに対し、当連結会計年度では 1億23百万円の損失超過となりました。これは、将来見込まれるPCB類を含んだ機器の廃棄費用を計上したことによるものです。

⑧ 法人税、住民税及び事業税・法人税等調整額

当連結会計年度の税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度に比べ 49億36百万円減少し 47億14百万円となりました。また、法人税、住民税及び事業税は、前連結会計年度に比べ 14億12百万円増加し、85億32百万円となりました。

決算日後3年間の課税所得予想範囲内で繰延税金資産の回収可能性の評価・算出を行った結果、法人税等調整額は 68億6百万円のマイナスとなったことから、税金費用負担額(純額)は 17億26百万円となり、前連結会計年度に比べ 13億97百万円の減少となりました。

⑨ 当期純利益

当連結会計年度の当期純利益は、前連結会計年度より 35億44百万円減の 29億53百万円となりました。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① キャッシュ・フロー

当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高は 1,397億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ 42億54百万円増加しました。これは、税金等調整前当期純利益 47億14百万円を計上したことなどにより営業活動によるキャッシュ・フローが 86億13百万円(前連結会計年度比 3億57百万円減)のキャッシュ・イン・フローとなった一方で、投資活動によるキャッシュ・フローが 27億22百万円のキャッシュ・アウト・フローとなり、財務活動によるキャッシュ・フローも 20億79百万円のキャッシュ・アウト・フローとなったことなどによりま

② 資金需要

当社グループの資金需要のうち主なものは、当社が受注した国内外のプラント建設に関わる費用、販売費及び一般管理費のほか、今後の成長戦略を支えるための投資であります。販売費及び一般管理費のうち主なものは、従業員給与手当等の人件費のほか、業務委託費等であります。当社の研究開発費は、研究開発に携わる従業員の人件費が過半を占めております。

③ 財務政策

現在、当社グループは、運転資金及び投資向け資金等の必要資金については、内部資金または借入により資金調達することとしております。このうち、当社の運転資金については、将来の資金需要に備えて、150億円の短期コミットメントライン枠を設定しております。

また、今後の投資資金については、コア事業の強化、ビジネス・ポートフォリオの多様化・拡大を目指した成長のための戦略投資、競争力強化並びに業務効率化のための I T やオフィスを始めとした経営基盤強化投資及び当社技術力の更なる強化、早期のビジネス化を目指した研究開発投資などを想定しており、手元資金を充当してまいります。

当社グループは、現時点での受注実績、財務状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力と、短期コミットメントラインの未使用借入枠により、当社グループを安定的に運営するのに十分な資金調達が可能と考えております。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因・経営者の問題意識、及び戦略的現状と今後の方針について

経営成績に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項、及び、それらに対する対応については、4.事業等のリスクに記載致しました。

受注については、当社の技術優位性が発揮できる案件を見極めつつ営業活動を展開してまいります。

手持工事については、カタールでの大型プロジェクトをはじめ内外手持工事について、確実な遂行に努めてまいります。



### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、前期に引き続きIT基盤の整備に注力した結果、1,853百万円の設備投資を実施しました。その他の事業について特記すべき事項はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成22年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			土地 (面積㎡)	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 及び備品	リース資産	合計	
本店 (横浜市)	エンジニア リング事業	エンジニア リング・営業・ 管理他	6,155 (16,321)	4,149	6	379	5	10,696	823
子安オフィス・研 究開発センター (横浜市)	エンジニア リング事業	エンジニア リング・営業・ 調達・研究開 発他	4,013 (28,368)	1,979	24	407	11	6,435	186
川崎オフィス (川崎市)	エンジニア リング事業	管理他	—	10	—	29	—	40	91
テクノウェイブ 100ビル (横浜市)	エンジニア リング事業	エンジニア リング・営業他	381 (2,121)	468	0	16	8	874	—
営業所・出張所等	エンジニア リング事業	営業・工事・ 管理他	—	6	261	44	—	312	181
その他厚生施設	エンジニア リング事業	厚生施設他	355 (12,885)	190	—	0	—	546	—
合計			10,906 (59,695)	6,805	292	876	24	18,905	1,281 (893)

##### (2) 国内子会社

平成22年3月31日現在

会社名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			土地 (面積㎡)	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 及び備品	リース資産	合計	
千代田工商 株式会社 (横浜市)	エンジニア リング事業	エンジニア リング他	166 (448)	252	—	12	—	431	282 (18)
千代田計装 株式会社 (横浜市)	エンジニア リング事業	エンジニア リング他	349 (3,361)	132	4	20	—	506	287 (84)
アローヘッド・ インターナシ ョナル株式会 社 (東京都港区)	その他の事業	営業他	313 (113)	78	—	8	—	400	59 (13)

(3) 海外子会社

平成22年3月31日現在

会社名 (所在地)	事業部門の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			土地 (面積㎡)	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 及び備品	リース資産		合計
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (シンガポール)	エンジニアリング事業	エンジニアリング他	—	648	6	26	—	681	216 (91)

(注) 1 従業員数は、就業人員数であります。

従業員数欄の( )内は(外数で記載している)、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2 「2 主要な設備の状況」に記載した金額には消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在、設備の新設、除却等の計画については、エンジニアリング事業、その他の事業共に特記すべきものはありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	570,000,000
優先株式	80,000,000
計	650,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	260,324,529	260,324,529	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株
計	260,324,529	260,324,529	—	—

(注) 当社は種類株式について、以下のとおり定款に定めております。

なお、会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

#### ・優先配当金

「当社は、剰余金の配当を行うときは、優先株式を有する株主(以下優先株主という。)または優先株式の登録株式質権者(以下優先登録株式質権者という。)に対し、普通株式を有する株主(以下普通株主という。)または普通株式の登録株式質権者(以下普通登録株式質権者という。)に先立ち、優先株式1株につき年30円を限度として、当該優先株式発行に際して取締役会の決議で定める額の剰余金(以下優先配当金という。)を配当する。

ある事業年度において、優先株主または優先登録株式質権者に対して配当する剰余金の額が優先配当金の額に達しないときは、その不足額は翌事業年度以降に累積しない。

優先株主または優先登録株式質権者に対しては、優先配当金を超えて配当は行わない。」

#### ・残余財産の分配

「当社は、残余財産を分配するときは、優先株主または優先登録株式質権者に対し、普通株主または普通登録株式質権者に先立ち、優先株式1株につき400円(ただし、1株の払込金額が400円を下回るときは払込金額とする。)を支払う。

優先株主または優先登録株式質権者に対しては、前項の他、残余財産の分配は行わない。」

#### ・議決権

「優先株主は、法令に別段の定めがあるときを除き、株主総会において議決権を有しない。」

なお、議決権を有しないこととしている理由は、資本増強にあたり、既存株主への影響を考慮したためであります。

#### ・優先株式の取得

「当社は、当社が定める日に、優先株式の全部または一部を取得することができる。

当社は、優先株式1株を取得すると引換えに優先株式1株の払込金額相当額の現金を交付するものとする。

一部取得するときは、按分比例の方法により行う。」

#### ・普通株式の引換え交付請求

「優先株主は、優先株式の発行に際して取締役会の決議で定める転換(当社が優先株式の取得と引換えに普通株式を交付することをいう。)を請求することができる期間中、当該決議で定める転換の条件により優先株式の本会社の普通株式への転換を請求することができる。」

#### ・株式の併合または分割、募集株式の割当てを受ける権利の付与等

「当社は、法令に別段の定めがある場合を除き、優先株式について株式の併合もしくは分割、株式無償割当てまたは新株予約権無償割当ては行わない。

当社は、優先株主には募集株式の割当てを受ける権利または募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えない。」

#### ・除斥期間

「(定款)第44条の規定(除斥期間(3年))は、優先配当金についてこれを準用する。」

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日(注)1	1,533	192,893	179	12,901	177	6,684
平成18年4月1日～ 平成19年3月31日(注)1	232	193,125	27	12,928	26	6,711
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日(注)1	57	193,182	6	12,934	6	6,718
平成20年4月30日(注)2	67,080	260,262	30,454	43,389	30,387	37,105
平成20年5月1日～ 平成21年3月31日(注)1	30	260,292	3	43,392	3	37,108
平成21年4月1日～ 平成22年3月31日(注)1	32	260,324	3	43,396	3	37,112

(注) 1 新株予約権の行使による増加であります。

2 第三者割当増資

割当先 三菱商事株式会社

発行価格 907円

資本組入額 454円

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (名)	—	49	32	259	334	8	9,523	10,205	—
所有株式数 (単元)	—	68,956	6,993	100,570	54,913	37	27,229	258,698	1,626,529
所有株式数 の割合(%)	—	26.65	2.70	38.88	21.23	0.01	10.53	100.00	—

(注) 1 平成22年3月31日現在の自己株式は1,117,239株であり、このうち1,117,000株(1,117単元)は「個人その他」に、239株は「単元未満株式の状況」にそれぞれ含めて記載しております。

2 平成22年3月31日現在の証券保管振替機構名義の株式は1,000株(1単元)であり、「その他の法人」に記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目3番1号	86,931	33.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	16,857	6.47
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	9,033	3.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	8,224	3.15
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信 託銀行株式会社)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	8,032	3.08
ザ バンク オブ ニューヨーク トリ ーテイー ジャスデック アカウント (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ 銀行)	ベルギー国ブリュッセル市 (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	4,534	1.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,851	1.47
J Pモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	2,952	1.13
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	2,760	1.06
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀 行株式会社)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	2,549	0.97
計	—	145,727	55.97

(注) 1 キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニーから平成21年11月19日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成21年11月13日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況に含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
キャピタル・ガーディアン・ トラスト・カンパニー	アメリカ合衆国カリフォルニア州 ロスアンゼルス市	7,686	2.95
キャピタル・インターナシヨナ ル・リミテッド	英国ロンドン市	1,135	0.44
キャピタル・インターナシヨナ ル・インク	アメリカ合衆国カリフォルニア州 ロスアンゼルス市	2,162	0.83
キャピタル・インターナシヨナ ル・エス・エイ・アール・エル	スイス国ジュネーヴ市	1,234	0.47
キャピタル・インターナシヨナル 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	351	0.13
計	—	12,568	4.83

- 2 フィデリティ投信株式会社から平成22年5月21日付で大量保有報告書の提出があり、平成22年5月14日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況に含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号	18,514	7.11
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	アメリカ合衆国マサチューセッツ州 ボストン市	5,040	1.94
計	—	23,554	9.05

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,117,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 257,581,000	257,581	—
単元未満株式	普通株式 1,626,529	—	1単元(1,000株)未満 の株式
発行済株式総数	260,324,529	—	—
総株主の議決権	—	257,581	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式239株を含めて記載しております。

② 【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
千代田化工建設株式会社	横浜市鶴見区鶴見中央 二丁目12番1号	1,117,000	—	1,117,000	0.43
計	—	1,117,000	—	1,117,000	0.43

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	153,476	109,628,586
当期間における取得自己株式	6,933	6,116,337

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 ( — )	—	—	—	—
保有自己株式数	1,117,239	—	1,124,172	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、連結当期純利益に対する配当性向について30%を目標とし、事業領域拡大などのため財務体質の強化を図りつつ株主の皆様への利益還元配に配慮した利益配分を行う方針であります。

当期の配当につきましては、1株当たり3円50銭といたしました。次期の期末配当金につきましては、1株当たり5円を予定しております。

(注) 当社の剰余金の配当は、株主総会の決議によって決定いたします。また、中間配当制度は採用しておりません。なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年6月24日 定時株主総会決議	907	3.50

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	3,220	2,835	2,930	1,274	946
最低(円)	1,031	1,897	865	348	529

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	11月	12月	平成22年1月	2月	3月
最高(円)	804	733	745	917	866	946
最低(円)	647	628	625	722	766	781

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。



5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	—	久保田 隆	昭和21年 11月21日生	昭和44年4月 平成10年6月 平成13年6月 平成16年6月 平成17年6月 平成19年4月 平成21年6月	当社入社 当社取締役、豪亜プロジェクト総室長 当社常務取締役兼執行役員 海外プロジェクト統括 当社取締役兼執行役員 国内プロジェクト副統括 当社常務取締役兼執行役員 技術統括 当社代表取締役社長兼執行役員 当社代表取締役社長（現任）	(注) 3	38
代表取締役 副社長執行役員	企画管理部門 長 (注) 4	菅野 洋一	昭和23年 7月19日生	昭和47年4月 平成16年6月 平成20年6月 平成20年7月 平成21年7月 平成22年7月	三菱商事株式会社入社 同社理事、欧州ブロック統括補佐 当社代表取締役副社長兼執行役員 当社代表取締役副社長兼執行役員 経営企画統括 当社代表取締役副社長執行役員 経営企画・総務人事・事業推進室管掌 当社代表取締役副社長執行役員 企画管理部門長（現任）	(注) 3	15
代表取締役 副社長執行役員	CFO (注) 4	柴田 博至	昭和24年 5月28日生	昭和48年4月 平成12年5月 平成13年6月 平成16年6月 平成17年6月 平成20年7月 平成21年7月 平成22年7月	株式会社三菱銀行入社 株式会社東京三菱銀行京都支社長 当社顧問、当社常務執行役員 財務・経営管理本部長 当社代表取締役専務取締役兼執行役員 経営企画管理統括 当社代表取締役副社長兼執行役員 経営企画管理統括 当社代表取締役副社長兼執行役員 経営管理統括 当社代表取締役副社長執行役員 財務・プロジェクト管理・CSR総室管掌 当社代表取締役副社長執行役員 CFO（現任）	(注) 3	45
代表取締役 専務執行役員	プロジェクト 部門長	小川 博	昭和27年 8月19日生	昭和52年4月 平成16年7月 平成17年6月 平成18年6月 平成19年6月 平成21年7月 平成22年6月	当社入社 当社カターンプロジェクト本部長 当社執行役員、カターンプロジェクト 本部長兼QGXチームPD 当社常務執行役員、カターンプロジェクト プロジェクト本部長兼QGXチームPD 当社常務取締役兼執行役員 海外プロジェクト副統括兼カターン第1ブ ロジェクト本部長 当社取締役常務執行役員 プロジェクト部門長 当社代表取締役専務執行役員 プロジェクト部門長（現任）	(注) 3	16

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務執行役員	プロジェクト 部門特命担当 (注) 4	中島 純夫	昭和26年 1月1日生	昭和49年4月 平成14年8月 平成16年6月 平成19年4月 平成19年6月 平成21年7月 平成22年7月	当社入社 当社エンジニアリング本部長 当社執行役員、エンジニアリング本部長 当社執行役員、技術統括 当社常務取締役兼執行役員、技術統括 当社取締役常務執行役員、技術部門長 当社取締役常務執行役員 プロジェクト部門特命担当（現任）	(注) 3	31
取締役 常務執行役員	営業部門長	横井 悟	昭和26年 10月6日生	昭和52年4月 平成10年5月 平成16年6月 平成19年6月 平成21年7月	当社入社 当社国内プロジェクト本部長 当社執行役員 国内第1プロジェクト本部長 当社常務取締役兼執行役員 国内プロジェクト統括 当社取締役常務執行役員 営業部門長（現任）	(注) 3	15
取締役 常務執行役員	CSR総室管掌兼 業務監査室管 掌 (注) 4	小保方 一夫	昭和25年 6月22日生	昭和49年4月 平成13年9月 平成18年7月 平成21年6月 平成21年7月 平成22年7月	三菱商事株式会社入社 韓国三菱商事株式会社理事・機械事業本部長 同社常務理事・機械事業本部長 当社取締役常務執行役員 当社取締役常務執行役員業務部門管掌 当社取締役常務執行役員 CSR総室管掌兼業務監査室管掌（現任）	(注) 3	5
取締役 常務執行役員	技術開発事業 部門長 (注) 4	腰塚 博美	昭和27年 10月13日生	昭和51年4月 平成12年8月 平成13年6月 平成18年7月 平成21年6月 平成21年7月 平成22年6月 平成22年7月	当社入社 当社排煙処理システム技術部長 当社エネルギー・環境技術部長 当社国内第2プロジェクト本部長代行 開発企画部部長 当社執行役員、国内プロジェクト副統括 当社執行役員、プロジェクト部門副部門長 当社取締役常務執行役員 プロジェクト部門副部門長 当社取締役常務執行役員 技術開発事業部門長（現任）	(注) 3	4
取締役	—	大河 一司	昭和31年 5月12日生	昭和55年4月 平成19年9月 平成20年6月 平成22年4月 平成22年6月	三菱商事株式会社入社 同社プラント・産業機械事業本部付部長 当社事業推進室付 三菱商事株式会社執行役員 インフラプロジェクト本部長（現任） 当社取締役（現任）	(注) 3	—
常勤監査役	—	井田 浩史	昭和27年 1月17日生	昭和49年4月 平成8年12月 平成15年6月 平成17年12月 平成18年6月	三菱信託銀行株式会社入社 同社与信監査室長 同社執行役員、審査部長 三菱UFJ信託銀行株式会社執行役員 名古屋法人営業部長 当社常勤監査役（現任）	(注) 5	6
常勤監査役	—	下野 涉	昭和22年 2月28日生	昭和44年4月 平成6年4月 平成9年11月 平成13年6月 平成19年6月 平成20年6月	当社入社 当社海外プロジェクト1部長 当社第3プロジェクト本部副部長 当社執行役員 海外プロジェクト計画本部長 当社執行役員 海外プロジェクト統括付 当社常勤監査役（現任）	(注) 6	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	—	伊東 正則	昭和24年 6月12日生	昭和48年4月 平成14年5月 平成15年7月 平成17年7月 平成20年5月 平成20年6月	三菱商事株式会社入社 同社情報産業グループCEOオフィスグループ コントローラー 宇宙通信株式会社取締役兼管理本部長 同社取締役兼執行役員、CFO 三菱商事株式会社化学プラントユニット 部付部長 当社常勤監査役（現任）	(注) 6	1
監査役	—	今出川 幸寛	昭和21年 11月16日生	昭和54年4月 平成14年6月	弁護士登録（東京弁護士会）（現任） 当社監査役（現任）	(注) 7	6
計							225

- (注) 1 監査役の井田浩史、伊東正則、今出川幸寛の各氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 「所有株式数」の欄には、当社役員持株会名義の株式が含まれておりますが、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの買付による株式は含まれておりません。
- 3 平成22年6月から1年
- 4 職名及び略歴は平成22年7月1日付であります。平成22年6月28日現在の職名は次のとおりであります。

役名	職名	氏名
代表取締役副社長執行役員	経営企画・総務人事・事業推進室管掌	菅野 洋一
代表取締役副社長執行役員	財務・プロジェクト管理・CSR総室管掌	柴田 博至
取締役常務執行役員	技術部門長	中島 純夫
取締役常務執行役員	業務部門管掌	小保方 一夫
取締役常務執行役員	プロジェクト部門副部門長	腰塚 博美

- 5 平成22年6月から4年
- 6 平成20年6月から4年
- 7 平成21年6月から4年
- 8 PD：プロジェクト ディレクター
- 9 当社は執行役員制度を導入しております。

上記の他の執行役員は、次のとおりです（平成22年7月1日付）。

常務執行役員 三谷 学 業務部門長

常務執行役員 木村 克俊 企画管理部門副部門長兼財務本部長

常務執行役員 三浦賢二郎 プロジェクト部門副部門長兼プロジェクト業務室長

常務執行役員 澁谷 省吾 技術部門長

常務執行役員 児島 雅彦 企画管理部門副部門長兼経営企画本部長

執行役員 大沼 敏行 社長室

執行役員 柿崎 剛 プロジェクト管理本部長

執行役員 山下 栄作 営業部門副部門長兼営業第1本部長

執行役員 白川 公一 プロジェクト部門副部門長兼海外第2プロジェクト本部長

執行役員 上地 崇夫 技術開発事業部門副部門長兼営業部門副部門長兼事業開発本部長

執行役員 清水 良亮 プロジェクト部門副部門長兼グループ企業統括本部長

執行役員 堀田 研二 企画管理部門副部門長兼総務人事本部長

執行役員 長坂 勝雄 営業部門副部門長兼営業第2本部長

執行役員 池田誠一郎 技術部門副部門長

執行役員 粕谷 典行 企画管理部門副部門長兼渉外・広報本部長

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社グループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主、顧客、従業員等のステークホルダーから信頼と共感を得られるCSRを重視した経営を企業活動の基本であると認識し、中長期的な質的成長の持続を目指して経営基盤の継続的強化、経営の健全性、透明性確保に取り組んでおります。コーポレート・ガバナンスの継続的強化及び内部統制の更なる体制整備を重要課題として掲げ、その実践に努めてまいります。

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は、以下に記載のとおりであります。

#### ① 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要及び採用する理由

当社は、取締役会、監査役/監査役会、会計監査人に加え、内部監査制度を整備したコーポレート・ガバナンス体制を構築しております。なお、業務執行機能を担う執行役員制度を採用し、経営監督機能を担う取締役と機能分離を図っています。執行役員は、取締役も出席する執行役員会（月例開催）において、定期的に業務執行状況を報告しております。

取締役会（月例開催）は代表取締役4名を含む全取締役9名で構成され、執行役員の業務執行を監督するとともに、当社重要事項の決定を合理的かつ効率的に行えるようにしております。また、変化の早い社会・経済状況に的確に対応し、業務執行に関する意思決定を迅速に行うため、その権限の一部を経営会議に委譲しています。

経営会議は、代表取締役4名全員で構成され、業務執行に関し委譲された意思決定を行う他、取締役会に付議する事項の事前審議機関という機能も併せ持っております。なお、経営会議は、毎週開催を原則としております。

当社は、監査役を4名（うち常勤監査役は3名）置いており、うち3名は社外監査役であり、監査役が取締役の職務執行全般に関する監査を行っています。社外監査役のうち、2名は独立役員であり、1名は財務・会計に関する相当程度の知見を有する監査役です。

##### ロ. 内部統制システムの整備の状況

当社は、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、法令等の遵守、資産の保全を目的とし、事業の個性及び特質を踏まえ、次の内部統制体制の構築・運用を行っています。

##### <内部統制運営委員会>

内部統制体制強化のために、業務監査室の管掌役員（久保田社長）を委員長とし内部統制に係る部署の長を委員とする内部統制運営委員会を設置しています。

内部統制運営委員会は、経営会議からの付託を受け、業務運営が適切な内部統制システムのもとで適正かつ効率的に行われるように各統制分野の情報を交換して各部門の調整を行い、期末又は必要と判断した時点で、経営会議に対し内部統制体制に関する改善等の提言を行っています。

経営会議では内部統制運営委員会からの提言を検討して、内部統制体制の整備について取締役会に付議し、取締役会がその決定を行っています。

##### <統制環境整備>

当社は、千代田グループ行動規範の原則に従い事業活動を行っています。適法かつ公正な事業活動の推進、企業としての社会的責任を果たすことを重視したCSR経営をコーポレートレベルで統合的に推進し統制環境を整備するのは、コンプライアンス監理室、社会・環境室、情報セキュリティーマネジメント室、輸出管理室を傘下に置くCSR総室が担当しています。

##### <法令等の遵守>

労働安全衛生、環境、品質及び輸出管理等を含むコンプライアンスに係るリスクについては、各担当部署において、マニュアルの作成、関係情報の周知徹底、研修の実施等を行っています。また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、警察、弁護士等の外部専門機関とも連携して、毅然とした姿勢で組織的に対応しています。

##### <業務情報の保存・管理>

業務に係る文書その他の情報については、当社の文書取扱規定を始めとする社内規定に従い、適切に保存及び管理を行っています。

情報セキュリティーマネジメントについては、国際的に採用されている情報セキュリティーマネジメントシステムに関する基準に準拠した当社グループの「情報セキュリティーマネジメントシステム」に沿って、情報資産の適切な取り扱いを行うものとし、その管理は、情報セキュリティーマネジメント室が担当しています。

##### <当社グループとしての体制整備>

当社グループ全体としての業務の適正を確保するために、重要なグループ会社は、当社と統一的考え方に基づき、グループとして整合的な内部統制体制を構築しています。具体的には、各社の業態業容に応じた内部統制運営委員会機能を持つ組織を設置し、コンプライアンス活動・自己統制体制の推進、内部統制環境の継続的な整備・運

用の強化に取り組んでいます。

グループ企業について経営管理面のグループ全体としての把握・管理は、グループ企業管理部が行っています。また、重要なグループ会社の内部監査は、当社と統一した考え方に基づいて実施するために、当社の業務監査室がまとめて実施しています。

<財務報告の適正性を確保するための体制>

当社は主要なグループ会社とともに、金融商品取引法で求められる財務報告の適正性を確保するため、業務ルールの文書化等所要の内部統制体制を整備し、これに則って日常業務を行うこととしています。また、新たなリスクが認識された場合や当該体制に不具合や不備が発見された場合には、速やかに改善を図っています。

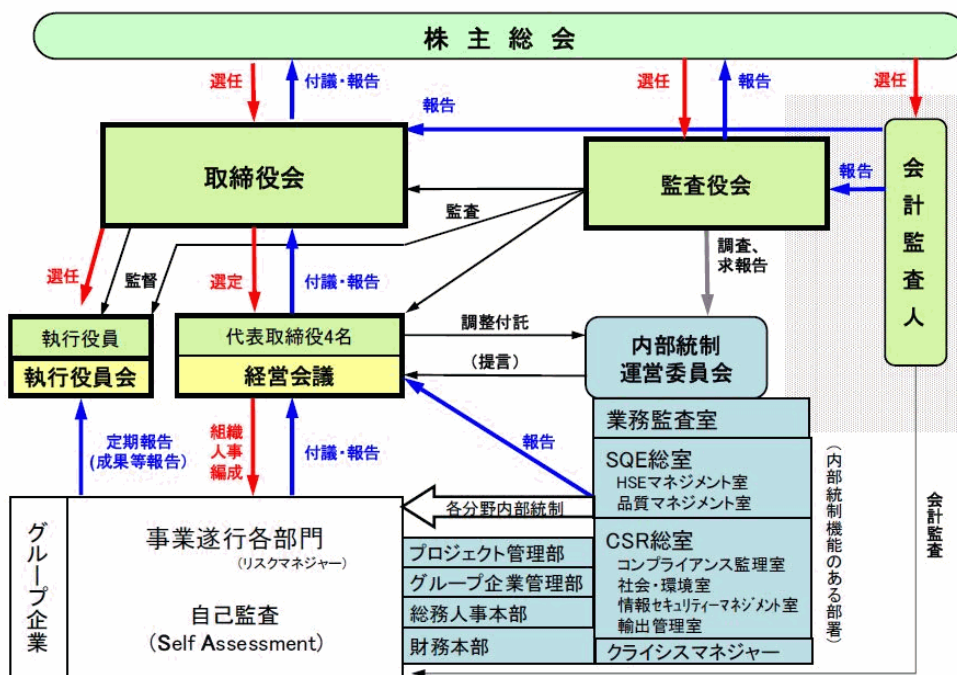
独立的内部監査機関である業務監査室は、日常の業務監査等を通じて各所における統制活動の実態を把握、検証し、必要に応じて改善を指導することによって、全社に亘っての財務報告に係る内部統制機能の実効性を確保しています。

ハ. リスク管理体制の整備の状況

事業の中核であるプロジェクト案件の受注・遂行、リスク管理については、テイクアップ検討会、見積方針検討会、プロポーザル審議会等の自己統制制度を堅持しています。加えてコールドアイレビューシステム、プロジェクトオーディット等の内部牽制機能はプロジェクト管理部が担当しています。

グループ危機管理体制として、当社危機管理及びリスク管理体制マニュアルに基づき、リスク並びにクライシス対応についてリスクマネジャーとクライシスマネジャーを任命し、恒常的な予防管理と有事の際の対処並びに被害最小化に努めています。

## コーポレートガバナンス/内部統制の関係図



## ② 内部監査及び監査役監査の状況等

### イ. 内部監査

当社は、独立的立場で内部統制の全体構造及び内部統制の各構成要素が適切に整備・運用されているかを確認するため、社長直属の内部監査部門として業務監査室を設置しております。業務監査室の要員は、10名（うち公認内部監査人1名、内部監査士3名、情報システム監査専門内部監査士1名）で構成されております。

### ロ. 監査役監査

監査役監査については、社外監査役3名を含む4名の監査役が、取締役会・経営会議・執行役員会等の重要会議に出席し、取締役の職務執行について不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実がないか、経営判断が善管注意義務に反していないか等の監査の視点から必要に応じ意見を表明しております。また、監査役は、監査役直属の専任職員(1名)を活用しながら、定期的に各代表取締役及び各部署長との対話を行うほか、適宜国内外の工事現場を往査して、全社に亘っての運営実態の把握に努めております。

### ハ. 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結しており、監査業務を執行する社員は以下のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 青木良夫

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 山澄直史

(注) 公認会計士 青木良夫氏は5年間、公認会計士 山澄直史氏は2年間、当社の会計監査業務を執行しております。期末決算時の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、会計士補等10名、その他1名の計15名で構成されております。

### ニ. 監査役監査、内部監査及び会計監査の相互連携

監査役監査の実効性を確保するため、監査役と業務監査室との間で、定期的な対話を行い、相互の連携を図っております。

また、監査役と会計監査人の連携は綿密に行われており、監査役会あての会計監査人定例報告会として、年間監査計画報告会、決算監査報告会などを開催しております。

③ 社外取締役及び社外監査役

イ. 社外取締役及び社外監査役の状況

当社は、監査役を4名置いており、うち3名は社外監査役であります。なお、当社は、社外取締役を選任していません。

社外監査役の氏名及び選任している理由（㈱東京証券取引所に独立役員として届け出ている、井田浩史、今出川幸寛の両氏については、独立役員と考える理由を含む。）は、次のとおりです。

氏名	当該社外監査役を選任している理由
井田 浩史	三菱UFJ信託銀行(株)の元執行役員としての経験に基づき、中立かつ客観的視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただくため。 <独立役員指定理由> 一般株主と利益相反のおそれがあるとされる事項への該当もなく、一般株主と利益相反のおそれがない社外監査役と認められるため。
伊東 正則	宇宙通信(株)の元取締役・元CFOとしての経験（財務・会計に関する相当程度の知見を有することを含む）に基づき、中立かつ客観的視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただくため。
今出川 幸寛	弁護士であり企業の法務に関する専門家として、中立かつ客観的視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただくため。 <独立役員指定理由> 一般株主と利益相反のおそれがあるとされる事項への該当もなく、一般株主と利益相反のおそれがない社外監査役と認められるため。

なお、当社は社外監査役との間に、特別の利害関係はありません。

ロ. 現在の体制を採用する理由

当社は、執行役員の業務執行を監督するとともに当社重要事項の決定を行う取締役会に対し、監査役4名中3名を社外監査役とすることで、経営の監視機能を強化しております。また、監査役の職務遂行を補助する専任職員を置くとともに、監査役と会計監査人との間及び監査役と業務監査室との間で相互の連携を図る体制を整備することで、監査の実効性を確保する体制を整備しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、社外監査役3名による監査が実施されることにより、客観的、中立的立場に立った経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現在の体制としております。

④ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の数

	人数	基本報酬	業績連動報酬	自社株式取得 目的報酬
取締役	10人	197百万円	23百万円	40百万円
監査役	4	74	-	-

- (注) 1. 取締役の報酬額合計は276百万円、監査役の報酬額合計は77百万円であり、社外役員（社外監査役3名）の報酬額合計は55百万円であります。なお、これらの注記の報酬合計額には、役員退職慰労金規定廃止(平成21年6月23日付)前の役員退職慰労引当金繰入額(取締役分15百万円及び監査役分2百万円)を含めておりません。
2. 上記の人数には、平成21年6月23日開催の第81回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名を含め、当期中に報酬の支払があった取締役及び監査役の人数を示しています。
3. 上記の他、当事業年度中に支払った役員退職慰労金の額は、取締役3名に対し171百万円であります。なお、この金額には、過年度の有価証券報告書において役員の報酬等の総額に含めた役員退職慰労引当金繰入額を含めております。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員報酬制度は、業績との連動強化、株主の皆様との価値共有、業績向上に対する意欲や士気向上を図ることを狙いとし、平成18年6月22日開催の第78回定時株主総会決議(取締役の業績連動報酬導入)及び平成21年6月23日開催の第81回定時株主総会決議により、以下のとおりご承認をいただいております。

	区分(名称)	報酬の考え方	報酬制度の概要
取締役	基本報酬	職責に対応	「取締役報酬」 年額3億円以内
	業績連動報酬	毎期の成果に対応	連結ベースの当期純利益や配当金の水準、経営目標の達成度などの定性的な要素を考慮し、2億円以内かつ連結当期純利益の額の1%以内で運用。
	自社株式取得 目的報酬	長期的な業績 向上に連動	年額9千万円以内で、取締役(社外取締役を除く)は、役員持株会を通じて自社株式を取得し、取得株式は退任時まで継続保有する。
監査役	基本報酬	職責に対応	「監査役報酬」 年額84百万円以内

⑤ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
39銘柄 5,037百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上 額(百万円)	保有目的
新日本石油㈱普通株式	1,500,000	715	取引関係強化のため
日本原燃㈱普通株式	66,664	666	取引関係強化のため
横河電機㈱普通株式	668,000	519	取引関係強化のため
太陽石油㈱第二種優先株式	5	500	取引関係強化のため
高砂熱学工業㈱普通株式	541,000	388	取引関係強化のため
新日本製鐵㈱普通株式	1,101,000	382	取引関係強化のため
ジェイ エフ イー ホールディングス㈱普通株式	96,600	342	取引関係強化のため
コニカミノルタホールディングス㈱普通株式	304,500	307	取引関係強化のため
新興プランテック㈱普通株式	255,000	210	取引関係強化のため
関西国際空港㈱普通株式	4,140	207	取引関係強化のため

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
記載すべき事項はありません。



⑥ 定款規定の内容

イ. 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を目的としております。

ロ. 優先株式

当社は優先株式発行会社であり、優先株式の単元株式数は1,000株で、優先株主は、法令に別段の定めがあるときを除き、株主総会において議決権を有しない旨を定款で定めております。なお、優先株式について議決権を有しないこととしている理由は、資本増強にあたり、既存株主への影響を考慮したためであります。

ハ. 取締役の定数

当社は、取締役の定員を12名以内とする旨を定款で定めております。

ニ. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって決する旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款で定めております。

ホ. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項の定めによる株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決する旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	85	5	86	—
連結子会社	24	—	26	—
計	109	5	112	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

財務報告に係る内部統制に関する指導・助言業務等であります。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

なお、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

なお、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則及び建設業法施行規則に基づき、当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則及び建設業法施行規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の連結財務諸表及び前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の財務諸表については監査法人トーマツにより監査を受け、また、当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の連結財務諸表及び当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の財務諸表については有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

なお、監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することが出来る体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	38,747	43,002
受取手形・完成工事未収入金	50,651	51,318
有価証券	96,841	96,841
未成工事支出金	16,920	※4 7,283
繰延税金資産	9,872	15,523
ジョイントベンチャー持分資産	※5 100,426	※5 69,917
その他	7,392	6,834
貸倒引当金	△3	△2
流動資産合計	320,848	290,719
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	※2 14,752	※2 15,193
減価償却累計額	△6,621	△7,151
建物・構築物（純額）	8,130	8,042
機械・運搬具	870	592
減価償却累計額	△233	△266
機械・運搬具（純額）	637	326
工具器具・備品	5,010	5,157
減価償却累計額	△3,732	△4,063
工具器具・備品（純額）	1,278	1,093
土地	※2 11,953	※2 11,938
建設仮勘定	1	48
有形固定資産計	22,001	21,450
無形固定資産	4,921	5,142
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 6,955	※1 7,855
繰延税金資産	1,348	1,745
その他	2,074	1,594
貸倒引当金	△333	△333
投資その他の資産計	10,045	10,861
固定資産合計	36,968	37,454
資産合計	357,816	328,174

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金	77,020	89,523
1年内返済予定の長期借入金	※2 18	※2 4
未払法人税等	5,457	4,675
未成工事受入金	91,661	48,168
完成工事補償引当金	3,801	4,486
工事損失引当金	4,302	※4 4,427
賞与引当金	3,557	3,252
その他	13,398	11,421
流動負債合計	199,218	165,960
固定負債		
長期借入金	※2 10,004	10,000
退職給付引当金	1,606	2,105
役員退職慰労引当金	681	200
PCB処理引当金	—	123
その他	388	532
固定負債合計	12,681	12,960
負債合計	211,899	178,921
純資産の部		
株主資本		
資本金	43,392	43,396
資本剰余金	37,108	37,112
利益剰余金	69,730	70,759
自己株式	△1,105	△1,215
株主資本合計	149,126	150,053
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△775	102
繰延ヘッジ損益	△1,368	△156
為替換算調整勘定	△1,469	△1,315
評価・換算差額等合計	△3,613	△1,369
少数株主持分	404	569
純資産合計	145,917	149,253
負債純資産合計	357,816	328,174

## ②【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	完成工事高	446,438		312,985
完成工事原価	427,461		※1 298,766	
完成工事総利益	18,977		14,219	
販売費及び一般管理費	※2, ※3 11,749		※2, ※3 12,517	
営業利益	7,227		1,702	
営業外収益				
受取利息	4,454		1,044	
受取配当金	646		972	
持分法による投資利益	137		144	
為替差益	—		1,214	
不動産賃貸料	247		140	
その他	127		199	
営業外収益合計	5,614		3,716	
営業外費用				
支払利息	340		249	
不動産賃貸費用	152		93	
為替差損	435		—	
株式交付費	271		—	
その他	192		237	
営業外費用合計	1,392		581	
経常利益	11,449		4,837	
特別利益				
貸倒引当金戻入額	127		—	
特別利益合計	127		—	
特別損失				
PCB処理引当金繰入額	—		123	
投資有価証券評価損	1,859		—	
その他	65		—	
特別損失合計	1,925		123	
税金等調整前当期純利益	9,651		4,714	
法人税、住民税及び事業税	7,120		8,532	
法人税等調整額	△3,996		△6,806	
法人税等合計	3,123		1,726	
少数株主利益	29		34	
当期純利益	6,498		2,953	

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	12,934	43,392
当期変動額		
新株の発行	30,457	3
当期変動額合計	30,457	3
当期末残高	43,392	43,396
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	6,718	37,108
当期変動額		
新株の発行	30,390	3
当期変動額合計	30,390	3
当期末残高	37,108	37,112
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	65,155	69,730
当期変動額		
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	6,498	2,953
連結範囲の変動	—	20
当期変動額合計	4,575	1,029
当期末残高	69,730	70,759
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△1,059	△1,105
当期変動額		
自己株式の取得	△46	△109
当期変動額合計	△46	△109
当期末残高	△1,105	△1,215
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	83,748	149,126
当期変動額		
新株の発行	60,848	7
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	6,498	2,953
連結範囲の変動	—	20
自己株式の取得	△46	△109
当期変動額合計	65,377	926
当期末残高	149,126	150,053

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	△847	△775
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	71	878
当期変動額合計	71	878
当期末残高	△775	102
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	△1,667	△1,368
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	299	1,211
当期変動額合計	299	1,211
当期末残高	△1,368	△156
為替換算調整勘定		
前期末残高	△6	△1,469
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,462	153
当期変動額合計	△1,462	153
当期末残高	△1,469	△1,315
評価・換算差額等合計		
前期末残高	△2,521	△3,613
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,091	2,243
当期変動額合計	△1,091	2,243
当期末残高	△3,613	△1,369
少数株主持分		
前期末残高	410	404
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6	164
当期変動額合計	△6	164
当期末残高	404	569
純資産合計		
前期末残高	81,637	145,917
当期変動額		
新株の発行	60,848	7
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	6,498	2,953
連結範囲の変動	—	20
自己株式の取得	△46	△109
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,097	2,408
当期変動額合計	64,280	3,335
当期末残高	145,917	149,253

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	9,651	4,714
減価償却費	1,957	2,059
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△158	△6
受取利息及び受取配当金	△5,101	△2,017
支払利息	340	249
為替差損益 (△は益)	△26	78
持分法による投資損益 (△は益)	△137	△144
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,859	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△13,859	469
未成工事支出金の増減額 (△は増加)	171	9,692
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,772	12,031
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△93,209	△43,592
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△847	△373
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△181	865
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	1,754	678
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	43	125
未収入金の増減額 (△は増加)	2,229	455
ジョイントベンチャー持分資産の増減額 (△は増加)	92,256	30,508
未払消費税等の増減額 (△は減少)	424	200
預り金の増減額 (△は減少)	△511	1
未払確定拠出年金移換額の増減額 (△は減少)	△811	△800
その他	9,477	△119
小計	8,094	15,078
利息及び配当金の受取額	1,347	1,323
利息の支払額	△398	△257
法人税等の支払額	△72	△7,531
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,971	8,613
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△539
定期預金の払戻による収入	888	539
有形固定資産の取得による支出	△563	△922
有形固定資産の売却による収入	41	3
無形固定資産の取得による支出	△1,156	△942
投資有価証券の取得による支出	△65	△535
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △215	※2 △388
長期貸付金の回収による収入	—	51
その他	△0	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,072	△2,722



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	10,000	—
長期借入金の返済による支出	△10,039	△18
株式の発行による収入	60,577	7
配当金の支払額	△1,920	△1,940
少数株主への配当金の支払額	△10	△7
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△13	△11
その他	△46	△109
財務活動によるキャッシュ・フロー	58,548	△2,079
現金及び現金同等物に係る換算差額	△999	152
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	65,447	3,963
現金及び現金同等物の期首残高	70,089	135,536
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	290
現金及び現金同等物の期末残高	※1 135,536	※1 139,790

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 17社            主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。            持分法適用関連会社であったITエンジニアリング㈱は、平成21年3月31日に当社が全株式を取得したことから、連結子会社に含めております。</p> <p>(2) 非連結子会社の数 12社            主要な非連結子会社は、イーアイエンジニアリング㈱であります。            非連結子会社12社は、その総資産合計額、売上高合計額、当期純損益のうち持分に見合う額の合計額及び利益剰余金等のうち持分に見合う額の合計額は、いずれも小規模であり全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしておりません。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 19社            主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。            千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシーは重要性が増したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。            また、持分法適用関連会社であった㈱アローメイツは、平成21年10月2日に株式を追加取得したことにより子会社となったため、連結の範囲に含めております。            なお、㈱アローメイツは、平成22年1月1日をもってアローヒューマンリソース㈱に商号を変更しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等            主要な非連結子会社            イーアイエンジニアリング㈱            (連結の範囲から除いた理由)            非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 3社            ㈱アローメイツ            エル・アンド・ティー・千代田リミテッド            千代田ペトロスター・リミテッド</p> <p>持分法適用関連会社であったアイ・ティー・イー・システムズ㈱は、平成20年4月1日にITエンジニアリング㈱に吸収合併されております。            また、ITエンジニアリング㈱は、平成21年3月31日に当社が全株式を取得したことから、連結子会社に含めております。</p>	<p>(1) 持分法適用の関連会社数 2社            エル・アンド・ティー・千代田リミテッド            千代田ペトロスター・リミテッド</p> <p>持分法適用関連会社であった㈱アローメイツは、平成21年10月2日に株式を追加取得したことにより子会社となったため、連結の範囲に含めております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>(2) 非連結子会社12社及び関連会社3社に対する投資については持分法を適用しておりません。</p> <p>このうち主要な非連結子会社は、イーアイエンジニアリング㈱、主要な関連会社は、カフコジャパン投資㈱であります。</p> <p>これらの持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の当期純損益のうち持分に見合う額の合計額及び利益剰余金等のうち持分に見合う額の合計額は、いずれも小規模であり全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしておりません。</p> <p>(3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度にかかる財務諸表を使用しております。</p>	<p>(2) 持分法を適用していない非連結子会社(イーアイエンジニアリング㈱ 他)及び関連会社(カフコジャパン投資㈱ 他)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等が、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、且つ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>(3) 同左</p>
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社のうち以下の会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>千代田シンガポール・プライベート・リミテッド 千代田インターナショナル・コーポレーション ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア 千代田タイランド・リミテッド 千代田フィリピン・コーポレーション 千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ 他 2社</p>	<p>連結子会社のうち以下の会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>千代田シンガポール・プライベート・リミテッド 千代田インターナショナル・コーポレーション ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア 千代田タイランド・リミテッド 千代田フィリピン・コーポレーション 千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ 千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー 他 2社</p>



項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(3) 重要な繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。	—————
(4) 重要な引当金の計上基準	<p>① 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率によっており、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>② 完成工事補償引当金 完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、主として、過去の経験割合に基づく一定の算定基準により計上しております。</p> <p>③ 工事損失引当金 受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、且つ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。</p> <p>④ 賞与引当金 従業員に支給すべき賞与の支払に備えるため、当連結会計年度に対応する支給見込額を計上しております。</p> <p>⑤ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき退職給付引当金又は前払年金費用として計上しております。 なお、会計基準変更時差異(5,696百万円)は、15年による均等額を営業費用処理しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により営業費用処理しております。 当社の数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌連結会計年度から営業費用処理することとしております。</p>	<p>① 貸倒引当金 同左</p> <p>② 完成工事補償引当金 同左</p> <p>③ 工事損失引当金 同左</p> <p>④ 賞与引当金 同左</p> <p>⑤ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異(5,696百万円)は、15年による均等額を営業費用処理しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により営業費用処理しております。 当社の数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌連結会計年度から営業費用処理することとしております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
	<p>⑥ 役員退職慰労引当金</p> <p>当社の役員(執行役員を含む)及び主要な連結子会社の役員に支給する退職慰労金に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <hr style="width: 10%; margin: 20px auto;"/>	<p>⑥ 役員退職慰労引当金</p> <p>主要な連結子会社は、役員に支給する退職慰労金に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>当社は、平成21年6月23日開催の定時株主総会及び同日開催の取締役会において、役員及び執行役員に対する退職慰労金制度を廃止し、制度廃止時点までの退職慰労金を打ち切り支給することを決議致しました。</p> <p>これに伴い、役員退職慰労引当金292百万円(執行役員分を含む)を取り崩し、固定負債の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>⑦ PCB処理引当金</p> <p>PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用及び収集運搬費用の見積額を計上しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(5) 重要な収益及び費用の計上基準	<p>完成工事高の計上基準</p> <p>原則として、工事完成基準によっております。但し、当社及び国内主要連結子会社4社は、契約額1億円以上、且つ、工期1年超の工事について、工事進行基準を採用しております。</p> <p>千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール子会社)及びピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア子会社)他6社についても工事進行基準を採用しております。</p> <p>なお、工事進行基準による完成工事高は、387,710百万円であります。</p>	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>① 当連結会計年度までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事</p> <p>工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)</p> <p>② その他の工事</p> <p>工事完成基準</p> <p>なお、工事進行基準による完成工事高は、255,089百万円であります。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、契約額1億円以上、且つ、工期1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、当連結会計年度より、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これによる完成工事高、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響は軽微であります。</p>
(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準	<p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。</p>	同左

項目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(7) 重要なヘッジ会計の方法	<p>① ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 なお、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約及び外貨預金  ヘッジ対象 外貨建資産負債及び外貨建予定取引</p> <p>③ ヘッジ方針 為替リスク管理方針に関する社内規定及び運用細則に基づき、外貨建の債権債務及び予定取引のキャッシュ・フローの円貨を固定するため及び外貨建の資産負債の為替変動リスクを軽減するためにヘッジを行っております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ有効性評価は、原則として四半期連結決算時及び連結決算時にヘッジ対象とヘッジ手段双方の相場変動の累計額を基礎に行っております。 但し、ヘッジ手段とヘッジ対象の資産・負債又は予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、ヘッジ有効性評価を省略しております。</p>	<p>① ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左  ヘッジ対象 同左</p> <p>③ ヘッジ方針 同左</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>① 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p> <p>② 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>① 消費税等の会計処理 同左</p> <p>② 連結納税制度の適用 同左</p>
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	<p>連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p>	<p>同左</p>
6 のれんの償却に関する事項	<p>—————</p>	<p>のれんの償却については、20年間の定額法により償却を行っております。</p>
7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、且つ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>同左</p>



【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>	<p>—————</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																				
<p>※1 非連結子会社及び関連会社に対する株式は3,190百万円であります。</p> <p>※2 下記の資産は、長期借入金(1年内返済予定を含む)22百万円の担保に供しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物・構築物</td> <td style="text-align: right;">472百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">381百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">853百万円</td> </tr> </table> <p>3 債務保証をしているものは次のとおりであります。</p> <p>(1) 従業員の住宅融資 511百万円</p> <p>(2) 関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">工事に係る債券等に対する保証 千代田アルマナ・エンジニアリング・ エルエルシー (US\$ 2,940,000)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">288百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">債務保証総合計 [US\$ 米ドル]</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">800百万円</td> </tr> </table>	建物・構築物	472百万円	土地	381百万円	合計	853百万円	工事に係る債券等に対する保証 千代田アルマナ・エンジニアリング・ エルエルシー (US\$ 2,940,000)	288百万円	債務保証総合計 [US\$ 米ドル]	800百万円	<p>※1 非連結子会社及び関連会社に対する株式は2,702百万円であります。</p> <p>※2 下記の資産は、1年内返済予定の長期借入金4百万円の担保に供しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物・構築物</td> <td style="text-align: right;">449百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">381百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">830百万円</td> </tr> </table> <p>3 債務保証をしているものは次のとおりであります。</p> <p>(1) 従業員の住宅融資 405百万円</p> <p>(2) 関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 40px;">工事に係る債券等に対する保証 千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">2,586百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">債務保証総合計 [US\$ 米ドル]</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">2,992百万円</td> </tr> </table> <p>※4 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金は、これに対応する工事損失引当金130百万円を相殺表示しております。</p> <p>※5 同左</p> <p>6 同左</p>	建物・構築物	449百万円	土地	381百万円	合計	830百万円	工事に係る債券等に対する保証 千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)	2,586百万円	債務保証総合計 [US\$ 米ドル]	2,992百万円
建物・構築物	472百万円																				
土地	381百万円																				
合計	853百万円																				
工事に係る債券等に対する保証 千代田アルマナ・エンジニアリング・ エルエルシー (US\$ 2,940,000)	288百万円																				
債務保証総合計 [US\$ 米ドル]	800百万円																				
建物・構築物	449百万円																				
土地	381百万円																				
合計	830百万円																				
工事に係る債券等に対する保証 千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)	2,586百万円																				
債務保証総合計 [US\$ 米ドル]	2,992百万円																				
<p>※5 請負工事に係るジョイントベンチャー契約の決算書における貸借対照表項目のうち、当社の持分相当額を表示しております。</p> <p>6 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">—</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">差引額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> </table>	貸出コミットメントの総額	15,000百万円	借入実行残高	—	差引額	15,000百万円															
貸出コミットメントの総額	15,000百万円																				
借入実行残高	—																				
差引額	15,000百万円																				

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																						
<p>※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 従業員給与手当</td> <td style="text-align: right;">2,307百万円</td> </tr> <tr> <td>(2) 賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">487百万円</td> </tr> <tr> <td>(3) 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">344百万円</td> </tr> <tr> <td>(4) 役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">117百万円</td> </tr> <tr> <td>(5) 業務委託費</td> <td style="text-align: right;">1,282百万円</td> </tr> <tr> <td>(6) 研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,797百万円</td> </tr> <tr> <td>(7) 貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table> <p>※3 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、1,797百万円であります。</p>	(1) 従業員給与手当	2,307百万円	(2) 賞与引当金繰入額	487百万円	(3) 退職給付費用	344百万円	(4) 役員退職慰労引当金繰入額	117百万円	(5) 業務委託費	1,282百万円	(6) 研究開発費	1,797百万円	(7) 貸倒引当金繰入額	0百万円	<p>※1 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、4,129百万円であります。</p> <p>※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 従業員給与手当</td> <td style="text-align: right;">2,876百万円</td> </tr> <tr> <td>(2) 賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">511百万円</td> </tr> <tr> <td>(3) 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">371百万円</td> </tr> <tr> <td>(4) 研究開発費</td> <td style="text-align: right;">1,741百万円</td> </tr> </table> <p>※3 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、1,741百万円であります。</p>	(1) 従業員給与手当	2,876百万円	(2) 賞与引当金繰入額	511百万円	(3) 退職給付費用	371百万円	(4) 研究開発費	1,741百万円
(1) 従業員給与手当	2,307百万円																						
(2) 賞与引当金繰入額	487百万円																						
(3) 退職給付費用	344百万円																						
(4) 役員退職慰労引当金繰入額	117百万円																						
(5) 業務委託費	1,282百万円																						
(6) 研究開発費	1,797百万円																						
(7) 貸倒引当金繰入額	0百万円																						
(1) 従業員給与手当	2,876百万円																						
(2) 賞与引当金繰入額	511百万円																						
(3) 退職給付費用	371百万円																						
(4) 研究開発費	1,741百万円																						

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

## 1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (千株)	193,182	67,110	—	260,292

(注) 普通株式の株式数の増加67,110千株は、第三者割当による新株の発行による増加67,080千株、新株予約権の行使による増加30千株であります。

## 2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (千株)	903	60	—	963

(注) 普通株式の株式数の増加60千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,922	10.00	平成20年3月31日	平成20年6月25日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,944	利益剰余金	7.50	平成21年3月31日	平成21年6月24日

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

## 1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (千株)	260,292	32	—	260,324

(注) 普通株式の株式数の増加32千株は、新株予約権の行使によるものであります。

## 2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式 (千株)	963	153	—	1,117

(注) 普通株式の株式数の増加153千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,944	7.50	平成21年3月31日	平成21年6月24日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	907	利益剰余金	3.50	平成22年3月31日	平成22年6月25日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																										
<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">38,747百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△52百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)</td> <td style="text-align: right;">96,841百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">135,536百万円</td> </tr> </table>	現金預金勘定	38,747百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△52百万円	預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)	96,841百万円	現金及び現金同等物	135,536百万円	<p>※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金預金勘定</td> <td style="text-align: right;">43,002百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△53百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)</td> <td style="text-align: right;">96,841百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">139,790百万円</td> </tr> </table>	現金預金勘定	43,002百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△53百万円	預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)	96,841百万円	現金及び現金同等物	139,790百万円																										
現金預金勘定	38,747百万円																																										
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△52百万円																																										
預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)	96,841百万円																																										
現金及び現金同等物	135,536百万円																																										
現金預金勘定	43,002百万円																																										
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△53百万円																																										
預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金 (有価証券勘定)	96,841百万円																																										
現金及び現金同等物	139,790百万円																																										
<p>※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の取得によりITエンジニアリング㈱を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と同社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">3,238百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">122百万円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">225百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">△1,829百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">△250百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,506百万円</td> </tr> <tr> <td>支配獲得時までの持分法評価額</td> <td style="text-align: right;">△441百万円</td> </tr> <tr> <td>ITエンジニアリング㈱ 追加取得価額</td> <td style="text-align: right;">1,064百万円</td> </tr> <tr> <td>ITエンジニアリング㈱ 現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">△849百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：ITエンジニアリング㈱ 取得のための支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">215百万円</td> </tr> </table>	流動資産	3,238百万円	固定資産	122百万円	のれん	225百万円	流動負債	△1,829百万円	固定負債	△250百万円	差引	1,506百万円	支配獲得時までの持分法評価額	△441百万円	ITエンジニアリング㈱ 追加取得価額	1,064百万円	ITエンジニアリング㈱ 現金及び現金同等物	△849百万円	差引：ITエンジニアリング㈱ 取得のための支出	215百万円	<p>※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の取得により㈱アローメイツを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と同社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">719百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">127百万円</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">599百万円</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">△545百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">△139百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">少数株主持分</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△6百万円</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td style="text-align: right;">755百万円</td> </tr> <tr> <td>支配獲得時までの持分法評価額</td> <td style="text-align: right;">△75百万円</td> </tr> <tr> <td>㈱アローメイツ 追加取得価額</td> <td style="text-align: right;">679百万円</td> </tr> <tr> <td>㈱アローメイツ 現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">△291百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：㈱アローメイツ 取得のための支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">388百万円</td> </tr> </table>	流動資産	719百万円	固定資産	127百万円	のれん	599百万円	流動負債	△545百万円	固定負債	△139百万円	少数株主持分	△6百万円	差引	755百万円	支配獲得時までの持分法評価額	△75百万円	㈱アローメイツ 追加取得価額	679百万円	㈱アローメイツ 現金及び現金同等物	△291百万円	差引：㈱アローメイツ 取得のための支出	388百万円
流動資産	3,238百万円																																										
固定資産	122百万円																																										
のれん	225百万円																																										
流動負債	△1,829百万円																																										
固定負債	△250百万円																																										
差引	1,506百万円																																										
支配獲得時までの持分法評価額	△441百万円																																										
ITエンジニアリング㈱ 追加取得価額	1,064百万円																																										
ITエンジニアリング㈱ 現金及び現金同等物	△849百万円																																										
差引：ITエンジニアリング㈱ 取得のための支出	215百万円																																										
流動資産	719百万円																																										
固定資産	127百万円																																										
のれん	599百万円																																										
流動負債	△545百万円																																										
固定負債	△139百万円																																										
少数株主持分	△6百万円																																										
差引	755百万円																																										
支配獲得時までの持分法評価額	△75百万円																																										
㈱アローメイツ 追加取得価額	679百万円																																										
㈱アローメイツ 現金及び現金同等物	△291百万円																																										
差引：㈱アローメイツ 取得のための支出	388百万円																																										

## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																								
借主側	借主側																																								
1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引	1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引																																								
① リース資産の内容	① リース資産の内容																																								
(ア) 有形固定資産 主として、エンジニアリング事業における電子計算機及びその周辺機器(工具器具・備品)であります。	(ア) 有形固定資産 同左																																								
(イ) 無形固定資産 ソフトウェアであります。	(イ) 無形固定資産 同左																																								
② リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。	② リース資産の減価償却の方法 同左																																								
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。	同左																																								
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>67</td> <td>12</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>475</td> <td>244</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>77</td> <td>43</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>619</td> <td>299</td> <td>319</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物・構築物	67	12	55	工具器具・備品	475	244	230	その他	77	43	33	合計	619	299	319	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>67</td> <td>19</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>388</td> <td>254</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>77</td> <td>51</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>533</td> <td>325</td> <td>207</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物・構築物	67	19	48	工具器具・備品	388	254	134	その他	77	51	25	合計	533	325	207
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																						
建物・構築物	67	12	55																																						
工具器具・備品	475	244	230																																						
その他	77	43	33																																						
合計	619	299	319																																						
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																						
建物・構築物	67	19	48																																						
工具器具・備品	388	254	134																																						
その他	77	51	25																																						
合計	533	325	207																																						
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産及び無形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。	(注) 同左																																								
(2) 未経過リース料期末残高相当額	(2) 未経過リース料期末残高相当額																																								
1年内 110百万円	1年内 90百万円																																								
1年超 209百万円	1年超 117百万円																																								
合計 319百万円	合計 207百万円																																								
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産及び無形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。	(注) 同左																																								

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料                    138百万円 減価償却費相当額              138百万円  (4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	(3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料                    111百万円 減価償却費相当額              111百万円  (4) 減価償却費相当額の算定方法 同左
2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内                            144百万円 1年超                            1,545百万円 <u>合計</u> 1,690百万円	2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内                            132百万円 1年超                            1,421百万円 <u>合計</u> 1,554百万円

(金融商品関係)

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、短期余剰資金は譲渡性預金や通知預金等の安全性の高い金融資産で運用し、また、運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述する為替の変動リスクを回避するために、先物為替予約のみを利用しており投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び完成工事未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債務をネットしたポジションについて先物為替予約を利用して当該リスクをヘッジしております。

有価証券は、余剰資金の運用のために保有する短期の譲渡性預金であります。当該譲渡性預金は発行金融機関の債務不履行のリスクに晒されております。

投資有価証券は業務上の関係を有する企業の株式であり、このうち上場株式に関しては市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び工事未払金はほとんど1年以内の支払期日であります。また、外貨建ての営業債務は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債権をネットしたポジションについて先物為替予約を利用して当該リスクをヘッジしております。

長期借入金には当社の運転資金に係る資金調達であり、金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法については前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社及び主要な連結子会社は経理規定に従い、主要取引先の財政状態を定期的にモニタリングし、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

譲渡性預金は格付けの高い金融機関のものを対象としているため、債務不履行リスクは僅少と判断しております。

先物為替予約の利用にあたっては、カウンターパーティ・リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

② 市場リスク(為替や金利変動等のリスク)の管理

当社は外貨建ての債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

先物為替予約取引については、当社の為替リスク管理方針に基づき個別の工事案件毎に月別為替ポジションを把握し、為替予約残高の見直しを行っております。なお、為替予約の設定・解約についても同方針に基づき実行・記帳し、契約先と残高照合を行っております。

市場価格のある投資有価証券については定期的に時価や発行体の財政状態を把握し、時価に著しい変動が生じたものについては、評価差額金の計上または減損処理を行うことによって市場価格の変動に伴うリスクを定量的に把握しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は適時に資金計画を作成・更新し手許流動性を適宜維持すること等により、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。

また、「2 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。



## 2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。  
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含めておりません(注2)参照)。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金預金	43,002	43,002	—
(2) 受取手形・完成工事未収入金	51,318	51,318	—
(3) 有価証券	96,841	96,841	—
(4) ジョイントベンチャー持分資産	69,917	69,917	—
(5) 投資有価証券	3,508	3,508	—
資産計	264,589	264,589	—
(1) 支払手形・工事未払金	89,523	89,523	—
(2) 未払法人税等	4,675	4,675	—
(3) 長期借入金	10,004	10,004	—
負債計	104,202	104,202	—
デリバティブ取引(*)	(346)	(346)	—

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

### 資 産

(1) 現金預金、(2) 受取手形・完成工事未収入金、(3) 有価証券

これらはほとんどが短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) ジョイントベンチャー持分資産

これらは請負工事に係るジョイントベンチャーの保有する現金預金のうち、当社の持分相当額であり、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

### 負 債

(1) 支払手形・工事未払金、(2) 未払法人税等

これらはほとんどが短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらは変動金利のため短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

### デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	4,343
出資証券	2

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(5) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金預金	43,002	—	—
受取手形・完成工事未収入金	50,932	341	45
ジョイントベンチャー持分資産	69,917	—	—
有価証券			
その他有価証券のうち満期があるもの	96,841	—	—
合計	260,692	341	45

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

## (有価証券関係)

## 前連結会計年度

## 1 その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

	種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	926	1,119	193
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	2,473	1,507	△966
合計		3,400	2,626	△773

(注) 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のあるものについて、1,859百万円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復の可能性等を検討の上、必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

## 2 時価評価されていない主な有価証券の内容(平成21年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
譲渡性預金	96,841
非上場株式	1,135
出資証券	2

## 3 その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額(平成21年3月31日)

種類	1年以内(百万円)
譲渡性預金	96,841

## 当連結会計年度

## 1 その他有価証券(平成22年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,249	1,741	507
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	1,259	1,635	△375
合計		3,508	3,377	131

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 1,641百万円)及び出資証券(同 2百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	13	4	12

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度

1 取引の状況に関する事項（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

(1) 取引の内容

当社は、為替予約を利用しております。

(2) 取引に対する取組方針

当社は、海外の工事等に関連する外貨建資産負債残高及び外貨建予定取引高等、実需の範囲内でのみ為替予約を利用することとしており、投機目的の為替予約は行わない方針であります。

(3) 取引の利用目的

当社は、外貨建の債権債務及び予定取引のキャッシュ・フローの円貨を固定するため及び外貨建の資産負債の為替変動リスクを軽減するために為替予約を行っております。

なお、為替予約を利用してヘッジ取引を行い、ヘッジ会計を適用しております。

① ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建資産負債及び外貨建予定取引

② ヘッジ方針

当社は、為替リスク管理方針に関する社内規定及び運用細則に基づき、外貨建の債権債務及び予定取引のキャッシュ・フローの円貨を固定するため及び外貨建の資産負債の為替変動リスクを軽減するためにヘッジを行っております。

③ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ有効性評価は、原則として四半期連結決算時及び連結決算時にヘッジ対象とヘッジ手段双方の相場変動の累計額を基礎に行っております。

但し、ヘッジ手段とヘッジ対象の資産・負債又は予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、ヘッジ有効性評価を省略しております。

(4) 取引に係るリスクの内容

海外の工事等に関連する各種契約の契約条件変更及び予定取引高の見積もりの変更等により、為替予約の額が実需を超えた場合には、その超えた部分に対応する為替予約は為替相場の変動によるリスクを有しますが、これらのリスクは重大なものではありません。

なお、為替予約の契約先はいずれも信用度の高い銀行であるため、相手方の契約不履行によるリスクはないと認識しております。

(5) 取引に係るリスク管理体制

当社の為替予約の実行及び管理は、為替リスク管理方針に関する社内規定及び運用細則に基づき実施しております。

(6) 「取引の時価等に関する事項」の補足説明等

取引の時価等に関する事項についての契約額等は、為替変動リスクのヘッジ対象である外貨建の資産負債等に原則として対応するヘッジ手段としての為替予約の想定元本であり、当該金額自体が為替予約取引のリスクの大きさを示すものではありません。

2 取引の時価等に関する事項（平成21年3月31日）

通貨関連

区分	種類	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引			
	売建			
	米ドル	14,990	15,022	△31
	ユーロ	1,331	1,332	△1
	買建			
	米ドル	0	0	△0
	ユーロ	19	18	△0
	ポンド	21	14	△6
合計		16,363	—	△39

(注) 1 時価の算定方法

期末の時価は先物相場を使用しております。

2 「外貨建取引等会計処理基準」により外貨建金銭債権債務等に振り当てたデリバティブ取引については、注記の対象から除いております。

3 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

当連結会計年度

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引（平成22年3月31日）

通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	米ドル売 円買	24,754	—	△74	△74
	ユーロ売 円買	2,236	—	△1	△1
	ポンド売 円買	278	—	△0	△0
	米ドル買 円売	2,599	—	△0	△0
	ユーロ買 円売	6	—	△0	△0
合計		29,876	—	△77	△77

(注) 時価の算定方法は、先物為替相場によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引（平成22年3月31日）

通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	米ドル売 円買	外貨建予定取引	11,833	3,361	△216
	ユーロ売 円買		1,016	—	29
	米ドル買 円売		4,540	—	150
	ユーロ買 円売		1,553	240	△61
	ポンド買 円売		114	—	△8
ユーロ買 米ドル売	2,934		2,292	△161	
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	米ドル売 円買	完成工事未収入金	76	—	(注) 2
	米ドル買 円売		440	—	
	ユーロ買 円売	工事未払金	424	—	
ポンド買 円売		4	—		
合計			22,939	5,893	△268

(注) 1 時価の算定方法は、先物為替相場によっております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている完成工事未収入金及び工事未払金と一体として処理されているため、その時価は、当該完成工事未収入金及び工事未払金の時価に含めて記載してあります。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、確定給付企業年金制度(キャッシュバランスプラン)及び確定拠出年金制度を設けております。

その他の国内連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度等を設けております。

なお、一部の海外連結子会社でも確定給付型の制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成22年3月31日) (百万円)
退職給付債務	△26,682	△26,403
年金資産	17,827	18,886
未積立退職給付債務	△8,855	△7,516
会計基準変更時差異の未処理額	3,661	3,044
未認識数理計算上の差異	5,287	3,395
未認識過去勤務債務(債務の減額)	△1,204	△1,028
連結貸借対照表計上額純額	△1,110	△2,105
前払年金費用	496	—
退職給付引当金	△1,606	△2,105

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
(注) 国内連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。	(注) 同左

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) (百万円)
勤務費用	1,027	736
利息費用	381	369
期待運用収益	△303	△265
会計基準変更時差異の費用処理額	610	608
数理計算上の差異の費用処理額	610	845
過去勤務債務の費用処理額	△176	△176
退職給付費用	2,149	2,119
その他	237	246
計	2,387	2,365

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。	(注) 1 同左
2 「その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。	2 同左

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
割引率	1.5%	同左
期待運用収益率	1.6%	同左
過去勤務債務の額の処理年数	10年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、営業費用処理しております。)	同左
数理計算上の差異の処理年数	10年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から営業費用処理することとしております。)	同左
会計基準変更時差異の処理年数	15年	同左



(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成14年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 8名 当社執行役員 8名 当社従業員 623名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 7,896,000株
付与日	平成14年7月12日
権利確定条件	付与日以降権利行使期間開始日まで当社の取締役、執行役員または従業員であること。ただし、当該対象者が定年退職または当社グループの取締役、監査役若しくは従業員になるために退職した場合は除く。
対象勤務期間	自 平成14年7月12日 至 平成16年6月30日
権利行使期間	自 平成16年7月1日 至 平成21年6月30日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① スtock・オプションの数

	平成14年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	—
権利確定後 (株)	—
前連結会計年度末	66,000
権利確定	—
権利行使	30,000
失効	—
未行使残	36,000

② 単価情報

	平成14年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	232
行使時平均株価 (円)	452
公正な評価単価(付与日) (円)	—

(注) 平成20年4月30日付新株発行による権利行使価格の調整を行っております。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)  
 ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	平成14年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 8名 当社執行役員 8名 当社従業員 623名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 7,896,000株
付与日	平成14年7月12日
権利確定条件	付与日以降権利行使期間開始日まで当社の取締役、執行役員または従業員であること。ただし、当該対象者が定年退職または当社グループの取締役、監査役若しくは従業員になるために退職した場合は除く。
対象勤務期間	自 平成14年7月12日 至 平成16年6月30日
権利行使期間	自 平成16年7月1日 至 平成21年6月30日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

① ストック・オプションの数

	平成14年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	—
権利確定後 (株)	—
前連結会計年度末	36,000
権利確定	—
権利行使	32,000
失効	4,000
未行使残	—

② 単価情報

	平成14年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	232
行使時平均株価 (円)	768
公正な評価単価(付与日) (円)	—

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)		
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		
繰延税金資産	繰延税金資産		
未払工事原価	5,600 百万円	未払工事原価	13,528 百万円
工事損失引当金	1,661 百万円	工事損失引当金	1,780 百万円
完成工事補償引当金	1,422 百万円	完成工事補償引当金	1,715 百万円
賞与引当金	1,367 百万円	賞与引当金	1,246 百万円
繰延ヘッジ損失	1,033 百万円	退職給付引当金	836 百万円
その他	4,714 百万円	その他	2,966 百万円
繰延税金資産小計	15,799 百万円	繰延税金資産小計	22,073 百万円
評価性引当額	△1,278 百万円	評価性引当額	△874 百万円
繰延税金資産合計	14,521 百万円	繰延税金資産合計	21,199 百万円
繰延税金負債		繰延税金負債	
ジョイントベンチャー持分損益	△2,992 百万円	ジョイントベンチャー持分損益	△3,785 百万円
前払年金費用	△201 百万円	その他	△145 百万円
その他	△114 百万円	繰延税金負債合計	△3,931 百万円
繰延税金負債合計	△3,309 百万円	繰延税金資産の純額	17,268 百万円
繰延税金資産の純額	11,212 百万円		
(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目にそれぞれ含まれております。	(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目にそれぞれ含まれております。		
流動資産 — 繰延税金資産	9,872 百万円	流動資産 — 繰延税金資産	15,523 百万円
固定資産 — 繰延税金資産	1,348 百万円	固定資産 — 繰延税金資産	1,745 百万円
固定負債 — その他	△9 百万円		
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳	2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳		
法定実効税率	40.6 %	法定実効税率	40.6 %
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.0 %	交際費等永久に損金に算入されない項目	3.5 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.8 %	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△7.3 %
税額控除等	△2.2 %	住民税均等割等	1.0 %
評価性引当額の増加	2.7 %	税額控除等	13.3 %
持分法による投資利益	△0.6 %	持分法による投資利益	△1.2 %
子会社における税率差異	△3.6 %	子会社における税率差異	△5.6 %
事業税の課税標準の差異	△0.7 %	事業税の課税標準の差異	△7.9 %
税制改正による繰延税金負債の取崩	△4.5 %	その他	0.2 %
その他	△0.5 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.6 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.4 %		

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)及び当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占めるエンジニアリング事業の割合が、いずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	429,879	16,548	9	446,438	—	446,438
(2) セグメント間の内部 売上高	16	2,103	42	2,161	(2,161)	—
計	429,896	18,651	52	448,600	(2,161)	446,438
営業費用	424,825	16,497	46	441,369	(2,157)	439,211
営業利益	5,070	2,154	5	7,230	(3)	7,227
II 資産	347,936	10,338	636	358,912	(1,095)	357,816

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域

(1) アジア …… インドネシア、シンガポール、フィリピン、ミャンマー、マレーシア、タイ

(2) その他の地域 …… アメリカ、ナイジェリア

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は3,273百万円であり、その主なものは当社の長期投融資資金(投資有価証券等)であります。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	303,372	8,586	1,026	312,985	—	312,985
(2) セグメント間の内部 売上高	922	2,998	35	3,956	(3,956)	—
計	304,295	11,585	1,061	316,942	(3,956)	312,985
営業費用	303,560	10,620	1,059	315,240	(3,956)	311,283
営業利益	734	965	2	1,702	(0)	1,702
II 資産	319,561	9,413	1,772	330,747	(2,572)	328,174

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域

(1) アジア …… インドネシア、シンガポール、フィリピン、ミャンマー、マレーシア、タイ

(2) その他の地域 …… カタール、アメリカ、ナイジェリア

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は2,992百万円であり、その主なものは当社の長期投融資資金(投資有価証券等)であります。

【海外売上高】

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

	アジア	中近東	ロシア・中央アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	20,380	277,627	23,308	1,966	323,282
II 連結売上高(百万円)					446,438
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	4.6	62.2	5.2	0.4	72.4

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア …………… シンガポール、インドネシア、マレーシア、タイ
- (2) 中近東 …………… カタール、アラブ首長国連邦
- (3) ロシア・中央アジア …… ロシア
- (4) その他の地域 …………… オーストラリア、アルジェリア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

	アジア	中近東	オセアニア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	12,709	147,336	6,730	2,330	169,107
II 連結売上高(百万円)					312,985
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	4.1	47.1	2.1	0.7	54.0

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア …………… シンガポール、タイ、マレーシア、中国
- (2) 中近東 …………… カタール、サウジアラビア
- (3) オセアニア …………… パプアニューギニア、オーストラリア
- (4) その他の地域 …………… アルジェリア、ブラジル

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 地域区分の表示の変更

従来、「オセアニア」は「その他の地域」に含めて表示しておりましたが、当連結会計年度において当該地域区分の重要性が増加したため、区分表示しております。なお、前連結会計年度の「オセアニア」の海外売上高は1,244百万円であります。

また、「ロシア・中央アジア」は当連結会計年度において当該地域区分の重要性が減少したため、「その他の地域」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「ロシア・中央アジア」の海外売上高は119百万円であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会社	三菱商事(株)	東京都 千代田区	202,816	総合商社	直接 33.75	工事の 仲介等	増資の 引受	60,841	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 三菱商事(株)が当社の行った第三者割当を引き受けたものであります。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	561円12銭	1株当たり純資産額	573円61銭
1株当たり当期純利益金額	25円58銭	1株当たり当期純利益金額	11円39銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	25円58銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	11円39銭

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	6,498	2,953
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	6,498	2,953
普通株式の期中平均株式数 (千株)	254,000	259,301
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数 (千株)	42	4
(うち新株予約権) (千株)	(42)	(4)

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至21年3月31日)及び当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	18	4	5.7	—
1年以内に返済予定のリース債務	10	13	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	10,004	10,000	2.4	平成23年4月から 平成24年3月まで
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	26	22	—	平成23年4月から 平成26年7月まで
合計	10,058	10,039	—	—

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	10,000	—	—	—
リース債務	13	5	2	0

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	第2四半期 自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	第3四半期 自平成21年10月1日 至平成21年12月31日	第4四半期 自平成22年1月1日 至平成22年3月31日
売上高 (百万円)	82,677	81,980	56,652	91,675
税金等調整前四半期純利益 又は純損失金額(△) (百万円)	3,848	△4,228	2,730	2,364
四半期純利益 又は純損失金額(△) (百万円)	2,081	△3,826	2,310	2,388
1株当たり四半期純利益 又は純損失金額(△) (円)	8.03	△14.75	8.91	9.22

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	22,787	26,807
受取手形	772	761
完成工事未収入金	※1 33,561	※1 34,941
有価証券	96,841	96,841
未成工事支出金	13,098	※5 5,557
未収入金	5,643	5,846
繰延税金資産	8,138	14,138
ジョイントベンチャー持分資産	※6 100,426	※6 69,917
その他	1,993	1,701
流動資産合計	283,263	256,513
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2 11,690	※2 12,030
減価償却累計額	△4,986	△5,401
建物（純額）	6,704	6,629
構築物	497	511
減価償却累計額	△309	△335
構築物（純額）	188	176
機械及び装置	265	217
減価償却累計額	△122	△123
機械及び装置（純額）	143	93
車両運搬具	496	241
減価償却累計額	△31	△41
車両運搬具（純額）	464	199
工具器具・備品	4,256	4,308
減価償却累計額	△3,103	△3,407
工具器具・備品（純額）	1,153	901
土地	※2 10,922	※2 10,906
建設仮勘定	1	48
有形固定資産計	19,577	18,954
無形固定資産		
借地権	1,086	1,086
ソフトウェア	3,469	3,160
その他	44	42
無形固定資産計	4,600	4,289



(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	3,693	5,040
関係会社株式	8,627	9,332
長期貸付金	20	21
従業員に対する長期貸付金	460	409
関係会社長期貸付金	13	476
繰延税金資産	581	938
その他	1,150	647
貸倒引当金	△315	△315
投資その他の資産計	14,232	16,551
固定資産合計	38,410	39,795
資産合計	321,673	296,308
負債の部		
流動負債		
支払手形	5,189	7,176
工事未払金	※3 50,941	※3 66,365
1年内返済予定の長期借入金	※2 18	※2 4
未払金	2,046	1,186
未払費用	1,490	1,467
未払法人税等	4,473	4,012
未成工事受入金	85,749	46,083
預り金	※3 17,150	※3 14,574
完成工事補償引当金	3,371	4,176
工事損失引当金	4,070	※5 4,259
賞与引当金	2,038	1,700
その他	5,607	4,805
流動負債合計	182,147	155,812
固定負債		
長期借入金	※2 10,004	10,000
退職給付引当金	—	387
PCB処理引当金	—	123
役員退職慰労引当金	474	—
その他	101	386
固定負債合計	10,580	10,897
負債合計	192,728	166,709

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	43,392	43,396
資本剰余金		
資本準備金	37,108	37,112
資本剰余金合計	37,108	37,112
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	34,500	34,500
繰越利益剰余金	17,197	15,901
利益剰余金合計	51,697	50,401
自己株式	△1,105	△1,215
株主資本合計	131,093	129,694
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△780	61
繰延ヘッジ損益	△1,368	△156
評価・換算差額等合計	△2,148	△95
純資産合計	128,945	129,598
負債純資産合計	321,673	296,308

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
完成工事高	383,189	253,467
完成工事原価	373,860	※1 249,140
完成工事総利益	9,329	4,327
販売費及び一般管理費	※2, ※3 8,728	※2, ※3 8,877
営業利益又は営業損失(△)	600	△4,550
営業外収益		
受取利息	3,958	878
有価証券利息	415	129
受取配当金	※4 1,804	※4 2,727
為替差益	—	1,213
不動産賃貸料	356	337
その他	69	75
営業外収益合計	6,604	5,362
営業外費用		
支払利息	394	275
不動産賃貸費用	245	250
為替差損	369	—
株式交付費	271	—
その他	180	174
営業外費用合計	1,461	700
経常利益	5,743	111
特別利益		
子会社支援損戻入益	867	—
貸倒引当金戻入額	1	—
特別利益合計	869	—
特別損失		
PCB処理引当金繰入額	—	123
投資有価証券評価損	1,859	—
その他	215	—
特別損失合計	2,075	123
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	4,537	△11
法人税、住民税及び事業税	4,800	6,526
法人税等調整額	△3,885	△7,186
法人税等合計	914	△659
当期純利益	3,622	648

【完成工事原価報告書】

		前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
材料費		75,669	20.2	38,636	15.5
労務費		14,736	4.0	11,525	4.6
(うち労務外注費)		(14,736)	(4.0)	(11,525)	(4.6)
外注費		240,866	64.4	162,766	65.4
経費		42,588	11.4	36,210	14.5
(うち人件費)		(17,238)	(4.6)	(17,132)	(6.9)
合計		373,860	100.0	249,140	100.0

(注) 原価計算の方法は、工事毎に実際原価を集計する個別原価計算によっております。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	12,934	43,392
当期変動額		
新株の発行	30,457	3
当期変動額合計	30,457	3
当期末残高	43,392	43,396
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	6,718	37,108
当期変動額		
新株の発行	30,390	3
当期変動額合計	30,390	3
当期末残高	37,108	37,112
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金		
前期末残高	34,500	34,500
当期末残高	34,500	34,500
繰越利益剰余金		
前期末残高	15,497	17,197
当期変動額		
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	3,622	648
当期変動額合計	1,700	△1,296
当期末残高	17,197	15,901
利益剰余金合計		
前期末残高	49,997	51,697
当期変動額		
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	3,622	648
当期変動額合計	1,700	△1,296
当期末残高	51,697	50,401
自己株式		
前期末残高	△1,059	△1,105
当期変動額		
自己株式の取得	△46	△109
当期変動額合計	△46	△109
当期末残高	△1,105	△1,215

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	68,591	131,093
当期変動額		
新株の発行	60,848	7
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	3,622	648
自己株式の取得	△46	△109
当期変動額合計	62,502	△1,399
当期末残高	131,093	129,694
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	△900	△780
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	120	841
当期変動額合計	120	841
当期末残高	△780	61
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	△1,667	△1,368
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	299	1,211
当期変動額合計	299	1,211
当期末残高	△1,368	△156
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	△2,568	△2,148
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	419	2,052
当期変動額合計	419	2,052
当期末残高	△2,148	△95
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	66,023	128,945
当期変動額		
新株の発行	60,848	7
剰余金の配当	△1,922	△1,944
当期純利益	3,622	648
自己株式の取得	△46	△109
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	419	2,052
当期変動額合計	62,922	653
当期末残高	128,945	129,598

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)												
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日前1ヶ月の市場価格の平均に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法</p>	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p>												
2 デリバティブの評価基準及び評価方法	時価法を採用しております。	同左												
3 たな卸資産の評価基準及び評価方法	未成工事支出金 個別法による原価法によっております。	未成工事支出金 同左												
4 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 建物については定額法、建物以外の有形固定資産については定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="571 1171 954 1272"> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>11～57年</td> </tr> <tr> <td>機械・運搬具</td> <td>4～13年</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>2～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(最長5年)に基づいております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	建物・構築物	11～57年	機械・運搬具	4～13年	工具器具・備品	2～15年	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 建物については定額法、建物以外の有形固定資産については定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="1024 1171 1407 1272"> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>11～57年</td> </tr> <tr> <td>機械・運搬具</td> <td>4～17年</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>2～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 同左</p>	建物・構築物	11～57年	機械・運搬具	4～17年	工具器具・備品	2～15年
建物・構築物	11～57年													
機械・運搬具	4～13年													
工具器具・備品	2～15年													
建物・構築物	11～57年													
機械・運搬具	4～17年													
工具器具・備品	2～15年													
5 繰延資産の処理方法	株式交付費 支出時に全額費用として処理しております。	—												

項目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
6 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	同左
7 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率によっており、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 完成工事補償引当金 完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、過去の経験割合に基づく一定の算定基準により計上しております。</p> <p>(3) 工事損失引当金 受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、且つ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。</p> <p>(4) 賞与引当金 従業員に支給すべき賞与の支払に備えるため、当事業年度に対応する支給見込額を計上しております。</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異(5,293百万円)は、15年による均等額を営業費用処理しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により営業費用処理しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌事業年度から営業費用処理することとしております。 当事業年度末においては、前払年金費用を投資その他の資産の「その他」に含めて計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 完成工事補償引当金 同左</p> <p>(3) 工事損失引当金 同左</p> <p>(4) 賞与引当金 同左</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、会計基準変更時差異(5,293百万円)は、15年による均等額を営業費用処理しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により営業費用処理しております。 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌事業年度から営業費用処理することとしております。</p>



項目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
	<p>(6) 役員退職慰労引当金 役員(執行役員を含む)に支給する退職慰労金に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(6) PCB処理引当金 PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用及び収集運搬費用の見積額を計上しております。</p>
<p>8 収益及び費用の計上基準</p>	<p>完成工事高の計上基準 原則として、工事完成基準によっております。但し、契約額1億円以上、且つ、工期1年超の工事については、工事進行基準を採用しております。 なお、工事進行基準による完成工事高は、371,353百万円であります。</p>	<p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準 ① 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法) ② その他の工事 工事完成基準 なお、工事進行基準による完成工事高は、236,613百万円であります。  (会計方針の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、契約額1億円以上、且つ、工期1年超の工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、当事業年度より、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。 これによる完成工事高、営業損失、経常利益及び税引前当期純損失への影響は軽微であります。</p>

項目	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)
9 ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。 なお、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用していません。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約及び外貨預金</p> <p>ヘッジ対象 外貨建資産負債及び外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 為替リスク管理方針に関する社内規定及び運用細則に基づき、外貨建の債権債務及び予定取引のキャッシュ・フローの円貨を固定するため及び外貨建の資産負債の為替変動リスクを軽減するためにヘッジを行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ有効性評価は、原則として四半期決算時及び決算時にヘッジ対象とヘッジ手段双方の相場変動の累計額を基礎に行っております。 但し、ヘッジ手段とヘッジ対象の資産・負債又は予定取引に関する重要な条件が同一である場合には、ヘッジ有効性評価を省略しております。</p>	<p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左</p> <p>ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>
10 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>(1) 消費税等の会計処理 同左</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 同左</p>

【重要な会計方針の変更】

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p>	—————

【追加情報】

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
—————	<p>(役員退職慰労金制度の廃止)</p> <p>平成21年6月23日開催の定時株主総会及び同日開催の取締役会において、役員及び執行役員に対する退職慰労金制度を廃止し、制度廃止時点までの退職慰労金を打ち切り支給することを決議致しました。</p> <p>これに伴い、役員退職慰労引当金292百万円(執行役員分を含む)を取り崩し、固定負債の「その他」に含めて表示しております。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)																																																																				
<p>※1 このうち回収予定が1年を超える延払工事未収入金は85百万円であります。</p> <p>※2 下記の資産は、長期借入金(1年内返済予定を含む)22百万円の担保に供しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">472百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">381百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">853百万円</td> </tr> </table> <p>※3 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工事未払金</td> <td style="text-align: right;">9,486百万円</td> </tr> <tr> <td>預り金</td> <td style="text-align: right;">12,925百万円</td> </tr> </table> <p>4 債務保証をしているものは次のとおりであります。</p> <p>(1) 従業員の住宅融資 511百万円</p> <p>(2) 関係会社</p> <p>① 工事に関するボンド等に対する保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 13,587,500)</td> <td style="text-align: right;">878百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)</td> <td style="text-align: right;">288百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ (RM 3,560,000)</td> <td style="text-align: right;">96百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">アローヘッド・インターナショナル(株)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">32百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">工事に関するボンド等に対する保証計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,296百万円</td> </tr> </table> <p>② 一括支払信託債務に対する併存的債務引受</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">千代田テクノエース(株)</td> <td style="text-align: right;">3,566百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田工商(株)</td> <td style="text-align: right;">3,384百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">千代田計装(株)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,063百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">一括支払信託債務に対する併存的債務引受計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,014百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">関係会社合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,310百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">債務保証総合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,821百万円</td> </tr> <tr> <td>[S\$ シンガポールドル US\$ 米ドル RM マレーシアリングット]</td> <td></td> </tr> </table>	建物	472百万円	土地	381百万円	合計	853百万円	工事未払金	9,486百万円	預り金	12,925百万円	千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 13,587,500)	878百万円	千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)	288百万円	千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ (RM 3,560,000)	96百万円	アローヘッド・インターナショナル(株)	32百万円	工事に関するボンド等に対する保証計	1,296百万円	千代田テクノエース(株)	3,566百万円	千代田工商(株)	3,384百万円	千代田計装(株)	1,063百万円	一括支払信託債務に対する併存的債務引受計	8,014百万円	関係会社合計	9,310百万円	債務保証総合計	9,821百万円	[S\$ シンガポールドル US\$ 米ドル RM マレーシアリングット]		<p>※1 このうち回収予定が1年を超える延払工事未収入金は75百万円であります。</p> <p>※2 下記の資産は、1年内返済予定の長期借入金4百万円の担保に供しております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">449百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">381百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">830百万円</td> </tr> </table> <p>※3 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工事未払金</td> <td style="text-align: right;">6,917百万円</td> </tr> <tr> <td>預り金</td> <td style="text-align: right;">10,326百万円</td> </tr> </table> <p>4 債務保証をしているものは次のとおりであります。</p> <p>(1) 従業員の住宅融資 405百万円</p> <p>(2) 関係会社</p> <p>① 工事に関するボンド等に対する保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)</td> <td style="text-align: right;">2,586百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 9,709,750)</td> <td style="text-align: right;">645百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)</td> <td style="text-align: right;">273百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">アローヘッド・インターナショナル(株)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">32百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">工事に関するボンド等に対する保証計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,537百万円</td> </tr> </table> <p>② 一括支払信託債務に対する併存的債務引受</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">千代田工商(株)</td> <td style="text-align: right;">2,995百万円</td> </tr> <tr> <td>千代田テクノエース(株)</td> <td style="text-align: right;">2,469百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">千代田計装(株)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">575百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">一括支払信託債務に対する併存的債務引受計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,040百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">関係会社合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,578百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">債務保証総合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,983百万円</td> </tr> <tr> <td>[US\$ 米ドル S\$ シンガポールドル]</td> <td></td> </tr> </table> <p>※5 損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金は、これに対応する工事損失引当金61百万円を相殺表示しております。</p>	建物	449百万円	土地	381百万円	合計	830百万円	工事未払金	6,917百万円	預り金	10,326百万円	千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)	2,586百万円	千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 9,709,750)	645百万円	千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)	273百万円	アローヘッド・インターナショナル(株)	32百万円	工事に関するボンド等に対する保証計	3,537百万円	千代田工商(株)	2,995百万円	千代田テクノエース(株)	2,469百万円	千代田計装(株)	575百万円	一括支払信託債務に対する併存的債務引受計	6,040百万円	関係会社合計	9,578百万円	債務保証総合計	9,983百万円	[US\$ 米ドル S\$ シンガポールドル]	
建物	472百万円																																																																				
土地	381百万円																																																																				
合計	853百万円																																																																				
工事未払金	9,486百万円																																																																				
預り金	12,925百万円																																																																				
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 13,587,500)	878百万円																																																																				
千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)	288百万円																																																																				
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ (RM 3,560,000)	96百万円																																																																				
アローヘッド・インターナショナル(株)	32百万円																																																																				
工事に関するボンド等に対する保証計	1,296百万円																																																																				
千代田テクノエース(株)	3,566百万円																																																																				
千代田工商(株)	3,384百万円																																																																				
千代田計装(株)	1,063百万円																																																																				
一括支払信託債務に対する併存的債務引受計	8,014百万円																																																																				
関係会社合計	9,310百万円																																																																				
債務保証総合計	9,821百万円																																																																				
[S\$ シンガポールドル US\$ 米ドル RM マレーシアリングット]																																																																					
建物	449百万円																																																																				
土地	381百万円																																																																				
合計	830百万円																																																																				
工事未払金	6,917百万円																																																																				
預り金	10,326百万円																																																																				
千代田ペトロスター・リミテッド (US\$ 27,802,500)	2,586百万円																																																																				
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (S\$ 9,709,750)	645百万円																																																																				
千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー (US\$ 2,940,000)	273百万円																																																																				
アローヘッド・インターナショナル(株)	32百万円																																																																				
工事に関するボンド等に対する保証計	3,537百万円																																																																				
千代田工商(株)	2,995百万円																																																																				
千代田テクノエース(株)	2,469百万円																																																																				
千代田計装(株)	575百万円																																																																				
一括支払信託債務に対する併存的債務引受計	6,040百万円																																																																				
関係会社合計	9,578百万円																																																																				
債務保証総合計	9,983百万円																																																																				
[US\$ 米ドル S\$ シンガポールドル]																																																																					

前事業年度 (平成21年 3月31日)	当事業年度 (平成22年 3月31日)						
※6 請負工事に係るジョイントベンチャー契約の決算書における貸借対照表項目のうち、当社の持分相当額を表示しております。	※6 同左						
7 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と貸出コミットメント契約を締結しております。 当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> </table>	貸出コミットメントの総額	15,000百万円	借入実行残高	—	差引額	15,000百万円	7 同左
貸出コミットメントの総額	15,000百万円						
借入実行残高	—						
差引額	15,000百万円						

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																														
※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td>(1) 従業員給与手当</td><td style="text-align: right;">1,368百万円</td></tr> <tr><td>(2) 賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">327百万円</td></tr> <tr><td>(3) 退職給付費用</td><td style="text-align: right;">274百万円</td></tr> <tr><td>(4) 役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>(5) 通信交通費</td><td style="text-align: right;">679百万円</td></tr> <tr><td>(6) 業務委託費</td><td style="text-align: right;">1,104百万円</td></tr> <tr><td>(7) 研究開発費</td><td style="text-align: right;">1,756百万円</td></tr> <tr><td>(8) 減価償却費</td><td style="text-align: right;">326百万円</td></tr> </table> 販売費に属する費用のおおよその割合 26.6% 一般管理費に属する費用のおおよその割合 73.4%	(1) 従業員給与手当	1,368百万円	(2) 賞与引当金繰入額	327百万円	(3) 退職給付費用	274百万円	(4) 役員退職慰労引当金繰入額	80百万円	(5) 通信交通費	679百万円	(6) 業務委託費	1,104百万円	(7) 研究開発費	1,756百万円	(8) 減価償却費	326百万円	※1 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額は、3,911百万円であります。 ※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr><td>(1) 従業員給与手当</td><td style="text-align: right;">1,555百万円</td></tr> <tr><td>(2) 賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">295百万円</td></tr> <tr><td>(3) 退職給付費用</td><td style="text-align: right;">316百万円</td></tr> <tr><td>(4) 通信交通費</td><td style="text-align: right;">730百万円</td></tr> <tr><td>(5) 業務委託費</td><td style="text-align: right;">1,094百万円</td></tr> <tr><td>(6) 研究開発費</td><td style="text-align: right;">1,709百万円</td></tr> <tr><td>(7) 減価償却費</td><td style="text-align: right;">355百万円</td></tr> </table> 販売費に属する費用のおおよその割合 28.1% 一般管理費に属する費用のおおよその割合 71.9%	(1) 従業員給与手当	1,555百万円	(2) 賞与引当金繰入額	295百万円	(3) 退職給付費用	316百万円	(4) 通信交通費	730百万円	(5) 業務委託費	1,094百万円	(6) 研究開発費	1,709百万円	(7) 減価償却費	355百万円
(1) 従業員給与手当	1,368百万円																														
(2) 賞与引当金繰入額	327百万円																														
(3) 退職給付費用	274百万円																														
(4) 役員退職慰労引当金繰入額	80百万円																														
(5) 通信交通費	679百万円																														
(6) 業務委託費	1,104百万円																														
(7) 研究開発費	1,756百万円																														
(8) 減価償却費	326百万円																														
(1) 従業員給与手当	1,555百万円																														
(2) 賞与引当金繰入額	295百万円																														
(3) 退職給付費用	316百万円																														
(4) 通信交通費	730百万円																														
(5) 業務委託費	1,094百万円																														
(6) 研究開発費	1,709百万円																														
(7) 減価償却費	355百万円																														
※3 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、1,756百万円であります。	※3 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、1,709百万円であります。																														
※4 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">1,700百万円</td> </tr> </table>	受取配当金	1,700百万円	※4 このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">2,647百万円</td> </tr> </table>	受取配当金	2,647百万円																										
受取配当金	1,700百万円																														
受取配当金	2,647百万円																														

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式 (千株)	903	60	—	963

(注) 普通株式の株式数の増加60千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式 (千株)	963	153	—	1,117

(注) 普通株式の株式数の増加153千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																								
借主側	借主側																																								
1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引	1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引																																								
① リース資産の内容 有形固定資産 主として、エンジニアリング事業における電子計算機及びその周辺機器(工具器具・備品)であります。	① リース資産の内容 有形固定資産 同左																																								
② リース資産の減価償却方法 重要な会計方針「4 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。	② リース資産の減価償却方法 同左																																								
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。	同左																																								
(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>67</td> <td>12</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>440</td> <td>227</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>72</td> <td>39</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>580</td> <td>279</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物・構築物	67	12	55	工具器具・備品	440	227	212	その他	72	39	32	合計	580	279	300	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物・構築物</td> <td>67</td> <td>19</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td>360</td> <td>238</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>72</td> <td>47</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>500</td> <td>305</td> <td>195</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物・構築物	67	19	48	工具器具・備品	360	238	121	その他	72	47	24	合計	500	305	195
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																						
建物・構築物	67	12	55																																						
工具器具・備品	440	227	212																																						
その他	72	39	32																																						
合計	580	279	300																																						
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																						
建物・構築物	67	19	48																																						
工具器具・備品	360	238	121																																						
その他	72	47	24																																						
合計	500	305	195																																						
(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産及び無形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。	(注) 同左																																								
(2) 未経過リース料期末残高相当額	(2) 未経過リース料期末残高相当額																																								
<table> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>102百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>197百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>300百万円</td> </tr> </tbody> </table>	1年内	102百万円	1年超	197百万円	合計	300百万円	<table> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>83百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>111百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>195百万円</td> </tr> </tbody> </table>	1年内	83百万円	1年超	111百万円	合計	195百万円																												
1年内	102百万円																																								
1年超	197百万円																																								
合計	300百万円																																								
1年内	83百万円																																								
1年超	111百万円																																								
合計	195百万円																																								
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産及び無形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。	(注) 同左																																								

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
(3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料                    136百万円 減価償却費相当額                136百万円  (4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	(3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料                    102百万円 減価償却費相当額                102百万円  (4) 減価償却費相当額の算定方法 同左
2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内                            144百万円 1年超                            1,545百万円 <u>合計</u> 1,690百万円	2 オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 1年内                            130百万円 1年超                            1,418百万円 <u>合計</u> 1,549百万円

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式7,538百万円、関連会社株式1,794百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価及び貸借対照表計上額と時価との差額は記載しておりません。



## (税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)		
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		
繰延税金資産	繰延税金資産		
未払工事原価	4,968 百万円	未払工事原価	13,040 百万円
関係会社株式評価損	2,046 百万円	関係会社株式評価損	2,046 百万円
工事損失引当金	1,653 百万円	工事損失引当金	1,730 百万円
完成工事補償引当金	1,369 百万円	完成工事補償引当金	1,696 百万円
繰延ヘッジ損失	1,033 百万円	賞与引当金	690 百万円
賞与引当金	828 百万円	減価償却超過額	677 百万円
その他	3,526 百万円	その他	2,108 百万円
繰延税金資産小計	15,426 百万円	繰延税金資産小計	21,991 百万円
評価性引当額	△3,414 百万円	評価性引当額	△3,028 百万円
繰延税金資産合計	12,011 百万円	繰延税金資産合計	18,963 百万円
繰延税金負債		繰延税金負債	
ジョイントベンチャー持分損益	△2,992 百万円	ジョイントベンチャー持分損益	△3,785 百万円
その他	△298 百万円	その他	△100 百万円
繰延税金負債合計	△3,291 百万円	繰延税金負債合計	△3,886 百万円
繰延税金資産の純額	8,720 百万円	繰延税金資産の純額	15,077 百万円
(注) 当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目にそれぞれ含まれております。	(注) 当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目にそれぞれ含まれております。		
流動資産 — 繰延税金資産	8,138 百万円	流動資産 — 繰延税金資産	14,138 百万円
固定資産 — 繰延税金資産	581 百万円	固定資産 — 繰延税金資産	938 百万円
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳	2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳		
法定実効税率	40.6 %	法定実効税率	40.6 %
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0 %	交際費等永久に損金に算入されない項目	△857.9 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△12.2 %	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	8,937.3 %
税額控除等	△4.7 %	住民税均等割等	△281.0 %
評価性引当額の増加	4.4 %	税額控除等	△5,341.1 %
事業税の課税標準の差異	△1.4 %	事業税の課税標準の差異	3,165.6 %
税制改正による繰延税金負債の取崩	△9.5 %	その他	△78.5 %
その他	△0.0 %	税効果会計適用後の法人税等の負担率	5,585.0 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.2 %		

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	497円23銭	1株当たり純資産額	499円98銭
1株当たり当期純利益金額	14円26銭	1株当たり当期純利益金額	2円50銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	14円26銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	2円50銭

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	3,622	648
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	3,622	648
普通株式の期中平均株式数 (千株)	254,000	259,301
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数 (千株)	42	4
(うち新株予約権) (千株)	(42)	(4)

## (重要な後発事象)

前事業年度(自平成20年4月1日 至21年3月31日)及び当事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)  
該当事項はありません。

④【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
(株式)

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
新日本石油(株)	1,500,000	715
日本原燃(株)	66,664	666
横河電機(株)	668,000	519
太陽石油(株) (第二種優先株式)	5	500
高砂熱学工業(株)	541,000	388
新日本製鐵(株)	1,101,000	382
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	96,600	342
コニカミノルタホールディングス(株)	304,500	307
新興プランテック(株)	255,000	210
関西国際空港(株)	4,140	207
その他(29銘柄)	1,835,408	796
計	6,372,317	5,037

(その他)

種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額(百万円)
(有価証券)		
その他有価証券		
譲渡性預金	—	96,841
(投資有価証券)		
その他有価証券		
出資証券(2銘柄)	—	2
計	—	96,844

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	11,690	346	6	12,030	5,401	420	6,629
構築物	497	13	—	511	335	26	176
機械及び装置	265	17	65	217	123	4	93
車両運搬具	496	7	263	241	41	10	199
工具器具・備品	4,256	355	303	4,308	3,407	324	901
土地	10,922	—	16	10,906	—	—	10,906
建設仮勘定	1	782	734	48	—	—	48
有形固定資産計	28,130	1,522	1,389	28,264	9,309	786	18,954
無形固定資産							
借地権	1,086	—	—	1,086	—	—	1,086
ソフトウェア	9,843	798	722	9,920	6,759	1,100	3,160
その他	101	0	—	101	58	2	42
無形固定資産計	11,031	799	722	11,107	6,817	1,102	4,289
長期前払費用	24	4	11	17	—	—	17
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	315	—	—	—	315
完成工事補償引当金	3,371	3,064	155	2,104	4,176
工事損失引当金	4,070 (—)	4,318	3,660	406	4,321 (61)
賞与引当金	2,038	1,700	2,038	—	1,700
PCB処理引当金	—	123	—	—	123
役員退職慰労引当金	474	22	203	293	—

- (注) 1 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替えによる戻入額であります。  
2 工事損失引当金の「当期減少額(その他)」は、見積の変更による戻入額であります。  
3 工事損失引当金の「前期末残高」及び「当期末残高」の( )内は内書きで、未成工事支出金と相殺表示した額であります。  
4 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」のうち主なものは、制度廃止に伴う取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

(イ) 現金預金

区分	金額(百万円)
現金	23
預金	
当座預金	19,493
普通預金	1,262
通知預金	6,000
別段預金	27
小計	26,783
合計	26,807

(ロ) 受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三愛プラント工業㈱	761
合計	761

(b) 決済期日別内訳

決済期日	金額(百万円)
平成22年4月	49
"  5月	712
合計	761

(ハ) 完成工事未収入金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
カタール・リキファイド・ガス・カンパニー・リミテッドⅡ	8,970
ラスラファン・リキファイド・ナチュラル・ガス・カンパニー・リミテッドⅢ	7,275
エクソンモービル・ミドルイースト・ガス・マーケティング・リミテッド	4,130
中部電力㈱	1,208
キリンエンジニアリング㈱	1,107
その他	12,247
合計	34,941

(b) 滞留状況

摘要	金額(百万円)
平成22年3月期計上額	34,233
平成21年3月期以前計上額	707
合計	34,941

## (二) 未成工事支出金

## (a) 期中の増減

期首残高 (百万円)	当期支出高 (百万円)	完成工事原価への振替額 (百万円)	期末残高 (百万円)
13,098	241,599	249,140	5,557

## (b) 期末残高の内訳

項目	金額(百万円)
材料費	599
労務費	919
外注費	1,503
経費	2,535
合計	5,557

## (ホ) ジョイントベンチャー持分資産

工事名称	金額(百万円)
カタール向けLNGプラント建設・改造工事	62,279
ロシア向けLNGプラント建設工事	3,244
パプアニューギニア向けLNGプラント建設工事	3,109
その他	1,283
合計	69,917

## ② 負債の部

## (イ) 支払手形

## (a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
新日鉄エンジニアリング㈱	2,453
日揮商事㈱	626
㈱クボタ	514
三菱重工業㈱	441
㈱神鋼エンジニアリング&メンテナンス	334
その他	2,805
合計	7,176

## (b) 決済期日別内訳

決済期日	金額(百万円)
平成22年4月	1,376
〃 5月	1,550
〃 6月	2,662
〃 7月	1,136
〃 8月	451
合計	7,176

(ロ) 工事未払金

相手先	金額(百万円)
千代田工商(株)	4,152
三菱UFJ信託銀行(株) (一括支払信託口)	2,807
トーヨーカネツ(株)・(株)大林組建設事業共同企業体	1,559
千代田計装(株)	1,084
千代田テクノエース(株)	985
その他	55,775
合計	66,365

(ハ) 未成工事受入金

期首残高 (百万円)	当期受入高 (百万円)	完成工事高への振替額 (百万円)	期末残高 (百万円)
85,749	179,795	219,461	46,083

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL <a href="http://www.chiyoda-corp.com/">http://www.chiyoda-corp.com/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、単元未満株式を買い取ることを請求する権利、残余財産の分配を受ける権利、剰余金の配当の交付を受ける権利など会社法第189条第2項各号で定める権利以外の権利を行使することはできません。



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第81期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月24日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月24日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第82期第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月10日関東財務局長に提出。

（第82期第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月12日関東財務局長に提出。

（第82期第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月12日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月12日

千代田化工建設株式会社

取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 青木良夫 ㊞

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山澄直史 ㊞

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千代田化工建設株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千代田化工建設株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、千代田化工建設株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、千代田化工建設株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月11日

千代田化工建設株式会社

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 青木良夫 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山澄直史 ㊞

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千代田化工建設株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千代田化工建設株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、千代田化工建設株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、千代田化工建設株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成21年6月12日

千代田化工建設株式会社

取締役会 御中

### 監査法人 トーマツ

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 青木良夫 ㊞

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山澄直史 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千代田化工建設株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第81期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千代田化工建設株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成22年6月11日

千代田化工建設株式会社

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 青木良夫 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山澄直史 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千代田化工建設株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第82期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千代田化工建設株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。